愛國婦人會機關

愛國婦人

愛國婦人會の目的は軍人の遺族及癈兵を救護するにあり

每月五日二十日發行
一部金參錢　一ケ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行四拾錢
本號全部禁轉載
發行所　東京麴町區（牛ケ淵公園）　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

電話番町五百二十番

本號には附錄として芝區日本橋區兩幹事部慈善演藝會の光景を添ふ

社說

◎歲暮

まだあるあると思ふうちに、何時しか月日は過ぎ去りて今年も將に暮れなんとす今から焦せつても悶いても、立つたものは仕方なし、靜かに過去を顧れば、正月の旅順陷落より軍隊凱旋の今日に至るまで、中々賑かにて面白かりしは今年なり、同じ一年でも今年の一年は格別にて、他の十年百年にも優される一年なり。今年の中に如何ほど我國の値打は上りて、世界の一大勢力となるに至りしかは、讀者のよく承知せらるゝ所にして、國としては今年ほど立ち甲斐ありし年はなかりしなり。されど國民の一人一人は如何なりしぞ、讀者は孰れも大に働きて國に劣らぬ進步をなされしを疑はずと雖も、中には年に對して多少面目なき人もあるべし、いづれも濟んだことなれば宜しいとして、來年は一つ何う働いて、國の爲め己れの進步の爲に盡さんものと、今の內によく〳〵思案し置くべきなり。

◎多忙家

世に多忙家なるものあり、何時も忙しそうにて、落付かず、人が訪ね來りても、何かそは〳〵として應接の遑さへなきが如し。さらば餘程用事があるのかといふに左にあらず、工面あしきが故に、一つの事に手がかゝり、物の置き所を忘れて容易に見附からず、羽織の紐を尋ぬるにあの簞笥この簞笥と、はねかへして半日がゝりて漸く見附け出すといふ次第ゆゑ朝から晩まで眼のまはるやうに忙しきなり、忙しきだけならばまだしも、何處へやつたも彼所にない筈はないにと怒り散らして、人を困らすに至る。氣の毒なるは此種の多忙家にて、歲暮の多忙、焦ち方も思ひやらるゝなり。

◎暇ある人

之に反し、何時も暇あるが如くにして、しかも多くの仕事をなす人あり、これは物の仕末よく、順序立ちて、遊ぶときは何も角も打忘れて遊び働く時は脇目もふらず働くゆゑ、時間の割りに仕事が出來て、常に閑日月あり、人は歲暮なりとて血眼になつて大騷ぎするに拘はらず、自分は何も角も片附けて、年の內に春の來れる心地して心長閑に歲暮の過される人は幸なる哉。

◎黑暗に眼

通例の人は明るい時しか眼は見へぬが、仕末のよき人は黑暗にも眼を有するものなり、物の置き所よく定まれるが故に、明りなくとも、手探りにて求むるものが持て來られるなり。斯る婦人の家庭は萬事整頓して、帳簿なども附け落ちなく、歲暮となりても、不意の懸け取りに驚く氣遣ひなく、安心してお正月が迎へらるゝなり。

◎煤掃き

去年の塵は掃ひ淘ひて、さつぱりしてお正月を迎へんと、彼所の家にも此所の家にも、バタ〳〵煤掃の音する頃とはなれり。若い奧さんの埃を恐れ給ひて、手拭姿の一段と美しく、草紙屑籠に身を固め、箒おつ取り罷り出づる長松には、下女涙をこぼして轉げまわる、上下の隔ても此日はなく、笑聲煤掃きの音に和して、樂しきはこの一日なり。

◎餅搗き

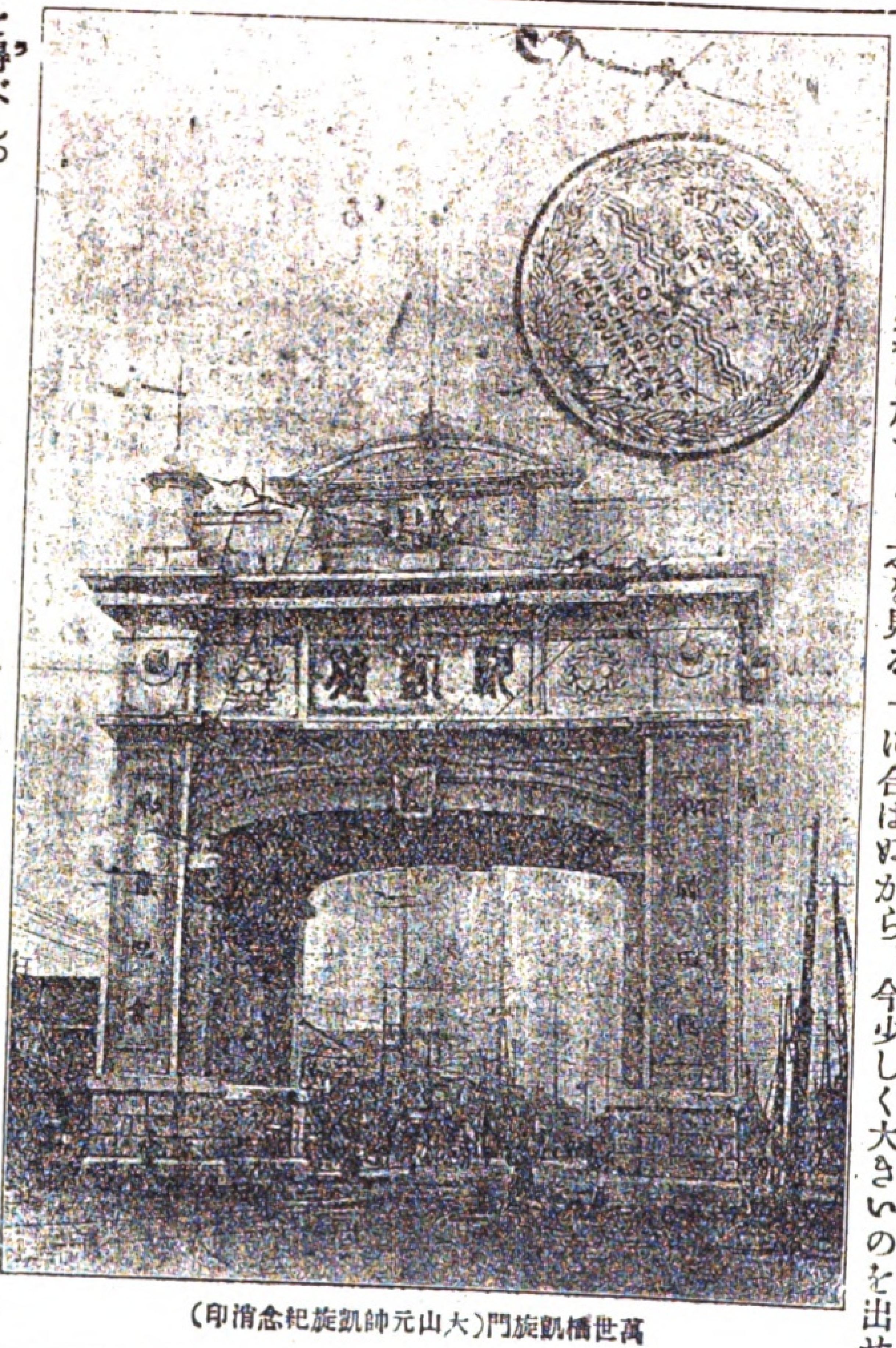
煤掃の合間には餅搗きの音も聞ゆなり、主人の日頃の朝寢にも似ず、小暗い內に起き上りて、鉢卷姿の勇ましく、はや二臼を搗き上げて、額の湯氣は餅の湯氣と立ち昇り、子供の小さき手に餅並ぶるも嬉し相なり。一家の平和團欒の趣は正月よりも、寧ろ、歲暮に於てよく之を見るを得べし。

◎時間の有難味

日頃うか〳〵と暮せる人も、年末には何角と用事ありて、今一日で明けて目出度なる頃には、血眼となりて騷ぎ出し何うして斯んなに暮したかと、つく〴〵時間の難有味が分るなり、況んや日頃忙しき人々には、暮れの二三日は一刻千金、餅の屑よりは時の屑が欲しい氣になるものなり。

◎除夜

懸け取りの提燈往來に忙しく暗を縫ふの頃、妻子頭打並べて蕎麥を食ひつゝ、我家の幸福を喜ぶと共に、憐れなる軍人の遺族を思ひ給へ。我等は讀者諸氏の樂しく新年を迎へられんことを祈り、年來の愛讀を謝して、今年の筆を茲に擱く。



萬世橋凱旋門（大山元帥凱旋紀念消印）

◎流行に心醉する勿れ

醫學博士　三島通良

◎婦人の帽子　私は此間洋物店に往つて女の兒の帽子を買はうと思つて、種々頭に合はして見た處が如何にも小さくて頭に合はぬから、今少し大きいのを出せと云つたら番頭の云ふのに、婦人の帽子は總て頭よりは小いものと定まつて居りますと云つて濟し込んで出さぬ、如何樣西洋婦人は髮を結ふて其上に着けるから小くて宜しいかも知れぬが、日本の少女の帽子にまでそれを用ゐねばならぬ必要はない、これ等が西洋崇拜の弊である。

◎婦人の髮　此節は二百三高地髷と云ふ髮の結ひ方が流行して來たが、此髷は髮を押へ付けたやうに平たく髮を膨らす、これも西洋婦人を眞似て似て非なるものである、西洋婦人は大概帽子を戴くから髮を彼樣にする必要があるが、日本婦人は帽子を戴かぬにも拘はらず、恰も帽子を乘せるに必要なるが如く髮を結ぶのは笑ふ可きの次第である。

◎婦人の襟卷　近頃はまた羽衣の付いた襟卷が流行して、學校の生徒まで卷いて出るやうになつて居るが、これも不思議な風俗て、西洋人が見たら嘸ぞ笑ふことと思ふ、西洋でも結婚年齡に達したる婦人とか、又は或る下賤なる婦人などはこれを纒ひ、これを一種の飾りとする事があるが、日本のやうに上下押しなべて、小供に至るまで彼樣な風を爲すのは甚だ奇怪なる風俗と云はねばならぬ。

◎踵の小さき靴　日本では婦人の靴は總て踵の小いのを用ゐるやうてあるが、是等は西洋風を全く眞似損つたもので、衞生上にも甚だ有害のものである、西洋では斯樣な物を用ゆるが通例ではない、何んでも西洋人のすることが善いと思ふと、飛んでもない間違が出來て來るから、充分に注意をせねばならぬ事と思ふ。

新春の本紙

吾が『愛國婦人』新年號は五日發行を繰上げて一月一日の發行となし紙面に一大改良を施し讀者諸姉に見んとす

附錄は

內親王殿下最近御撮影の御肖像なれば額面大に縮寫して諸姉に頒つと共に其記事內容には

三輪田眞佐子刀自の『積善の家』と題する修德の論文あり

鳩山春子夫人の『問題は大なるを挿べ』と題する雄篇あり其の他

婦人と乘馬　西川農商務省技師江原素六氏の『馬と豚の走つこ』

馬　入江家畜病院長

髮自慢と題する糸左近氏が獨特の衞生小說

うつくしいべゝと題する久米見歟村氏の育兒談

玩具　笠原技師始め

下田歌子女史其他上流婦人の詠歌に現代名家の所說を網羅して

百花繚爛の觀あるに加へて

曙光新詩平和

短文初日影和歌名家諸氏が彩筆に成れるものを滿載し繪畫十數

錦上更に花を添ゆるの美觀盛裝なる各ページに挿入して新年に於ける婦女雜誌中の女王たらん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎小兒の家庭教育（三）

ドクトル　川瀬元九郎

親が一旦發布した命令は必ず服從させねばならぬ、子供が「否」とか「不贊成」を稱へたからとて、是れを變更したり、又は撤回するやうなことでは、親の威嚴は保たれぬ、從て家庭教育など夢にも見ることは出來ないのみならず、親は子供の奴隸同樣になつて仕舞ふのである。であるから何んな些細なことでも、一命令を發する前には必ず充分に愼重の態度を以て考慮しなければならぬ、親であるからと云つて神ならぬ身である以上は、誤りのないものでもない、その誤り又は無理なことを親の權威を以て何所までも子供に服從を命ずることは宜しくない、自然に子供より怨を買ふやうになる、又た子供から輕蔑を受けるやうなことにもなる、一體子供と云ふものは理性が發達して居らぬから、親達の意見を能く理解することが出來ぬことがあるから、命令を發したら何が故にその命令を發したか、又は是れを守らなければ如何なる不利益があるかを懇ろに說明して遣り、子供に了解が出來るやうに力めなければならぬ、譬へば子供が學校へ行くのを好まぬ場合がある、身體に何んとなく不愉快で學校を休まんとする時もあるから、能く身體の工合やら、色々の方面に向つて取調べた上理由のなきものと診定したならば、學校を缺席することの宜しくない理由を充分に云ひ聞かせて、了解するやう注意しなければならぬ、是れだけの深切を盡さないで、親の權威を以て學校へ追ひ遣ることは宜しくない。

また子供が雨天に際して雨具の用意もなく外出せんとすることがある、子供は身體に害を及ぼすことを知らないで居るのであるから、外へ出てはいけませぬと一概に禁令を出すのは不都合である、斯樣な場合には相當の仕度をして出るか、又は成るべく室內にて遊ぶやうしなければ寒冒に罹かる、その結果から來る本人の苦痛やら親達の心配やら、醫師に面倒を掛けることやら、丁寧に話せば能く了解するものである。

何事に依らず及ぶべき丈け子供の發達の度に應じて、その理性に訴へるやうにするが肝腎である、子供に親は無理を云ふ人である、服從しなければ小言を食ふ、折檻されるから致方なしに遣りませうと云ふやうに感じさせてはならぬ、此邊の注意は敎育上重要なることである。

次に日本では自分の親や夫妻子女のことを、愚父とか豚兒とか云つて謙遜としてあるが、是れは考へものであると思ふ、手紙などで書くのは差問へがないかも知れぬが、來客などがあつて「坊ッちやはお怜悧ですねえ」とか「大人ですねえ」とか、斯樣な讃め言を用ゆることがある、母親は傍に在る子供を顧みて「いゝえ是れは我儘で困まります」とか「馬鹿で困まります」とか云ふ挨拶をすることがある、傍で母の返答を聞いて居る子供は何んと思ふてあらう。

我が最愛の母、我が賴みとする母が、我が事を客に惡口を云ふ、如何なる次第であるか、我は母を信賴するに、母は我を愛しないのであるか、我は如何なる惡き子供であるかと云ふやうな感じが浮んで來るに相違ない、多くの人は子供は無感覺であると思ふて、子供の面前で斯樣なことを云ふが、子供は大人よりも一層この邊に就いては銳敏である、大人は忍耐力も強い、また眞に云ふた通りである、是れは一の形式的の挨拶であると云ふことが了解が出來る、然し子供は忍耐力も乏しく、又は眞の挨拶であるか、母が心から云ふて居るのか了解する力がない、是れは子供の感情を惡くするから注意するが宜しい、客の方でも注意して遣るがよい、西洋人は子供を讃めて遣れば眞に受けて、さうして怜悧である、大人しい、可愛い子であると返答するけれども、日本人には從來の慣習上さうは遣れない、故に双方に於て愼まねばならぬと思ふ。

◀記者曰、本編は「家政」欄內に連載し來りしものなるが本號より改めて本欄に揭ぐることとなせり

◎家庭用具の專賣特許に就て

特許局技師　工學士　本間冬一

◎臺所道具　家庭用具の內にても色々な種類があるが、其內でも竈の改良などは一番多いので、今日まで特許を受けた數が百十數件程ある、特許の目的は色々あるが、竈に付ては要するに火力を應用して經濟的に用ゆる主旨のものが多い

◎特許の釜　釜の改良についても中々ある、蓋を改良して煑へ立つて噴出す泡を防ぐのがあるし、火力を一時に上下に屆かすやうな工風をしたのもあるし、釜を二重にして、一方では湯を湧かすのがある、其他種々なる發明がある

◎庖廚具　味噌磨器械の發明もあれば、大根下ろしの發明もあるし、鍋の抱手の改良から、茶出し辨當箱等に至るまで特許を與へたものがある

◎特許と發明　特許權を政府が一個人に與へると云ふ事は、發明と云ふ或る精神的行爲に對して一の特別なる權利を與へるのであつて、特許を與へたものが必しもよく賣れる品物であることを證明したものとは限らぬ、賣れると賣れぬとはまた別の技術を要するのである

◎家庭と特許品　特許權を與へても、夫れが一般に能く賣れ往かねば折角の發明も水泡に歸する次第であつて、發明者を奬勵する事にならぬ、そこで家庭に於ては可成特許品に目を付け、便利なものと認めた以上は直ちに之れを購入して遣るやうにして貰ひたいと思ふ、これは一面發明者を奬勵する社會上の德義であると同時に、一面には家庭改良の魁となる次第であると思ふ

◎婦人の思想　家庭の改良を常に目的として居る人でも、器物の改良は中々計らぬものである、祖先の使用し來りし竈は恰も其家の特許權を得たるが如く、容易に新らしいものと代へることが出來ぬ、婦人の思想は二十世紀的か知らぬが、外形の物品は皆舊式で不便利千萬なものである、眞に改良を計らんには、其外形の物品から取替へて漸次總てに及ぼす必要があると思ふ

◎婦人と特許權　我が國も漸次女子の敎育か盛んになつて來て、婦人て立派と云ふ程でなくても何うか從來の婦人とは違つて、一人前即ち男の力に賴らずして獨立して夫れ〳〵の職業に有り附くやうになつて來たが、まだ〳〵發明力抔と云ふものは少しも發達しない、婦人だとて發明の力がないとは極つて居らぬに、一向に特許を出願して來るものがない、婦人と云へば學校敎師や銀行の事務員位ゐの能力に過ぎぬと云ふものがあるが、夫れは婦人を侮辱した言葉て、西洋の婦人には發明家が澤山にある、日本でも今に科學が進步して來て、婦人てドシ〳〵器械や器具を發明して特許を願ひ出るやうにならねばならぬ

◎米國歸朝談

評議員　森村菊子

◎米國に往くと若くなる　私共は僅か許りの時間にて米國を視察して歸つたのでありますが、米國の文物の進步して居る有樣なり、其他婦人の活動して居ります有樣を見ますと、私共のやうな老人ても若返りが致すやうな心持ちが致して、家の內に許り引込んで居ないで、滿身の勇氣を振り起して何事でも行ふて見やうと云ふ氣になります

◎婦人の活動　米國婦人の能く活動する有樣は實に驚く許りて、商店には皆婦人が居て商業の一部を擔任し、官廳でも器械工場でも、婦人の働いて居らぬ處はないと云ふ程であります、斯くなつてこそ米國が日に月に進んで往くのであると思ひます、顧みて日本の有樣を見ると、婦人の働きは實に幼稚であつて、國の進步を促す爲には今一段の働きがなくては適はぬ事と思ひます

◎米國婦人の經濟　米國婦人は奢りも致しますが、家計の事も能く考へて居りまして、用意周到なる處があります、殊に買物などを致すには、家に待つて居て人の持つて來る物品を買ふやうなことはありません、中流以上の婦人ても皆籠を携へて市に野菜肉類などを買ふが如き働きは、日本婦人には出來兼る業であります

◎カーネーギーの工場　一代の內に巨萬の富を作り、世界の偉人とさへ云はるゝ有名なるカーネーギーの鐵工場をも一日見物に往きましたが、文明の利器たる器械力を充分に應用して居りますから、大仕掛にて回轉を要する器械も僅かの人數を以つて運轉を司り、原材料より製作品に成る迄は眞に僅かの時間て出來上ります、鐵の砂から鋼鐵になるのは私共が見て居る間に出來上りました

◎女子大學　米國の女子大學も私は一ケ所參觀致しましたが、參觀の時間が遲た爲に敎授の有樣を充分に調る事も出來ませんて、理科敎室の一部分だけ見ましたが、其標本と云ひ敎授用の器具の備へ付と云ひ、頗る完全した物でありました

◎渡米婦人の注意　私は日本國の發達を計らんが爲には、先進國の模樣を實地に見る必要があると思ひます、夫は男子のみでない日本の婦人にとつて最も必要な事柄かと思ますから、是からは婦人も渡米して見學する事が必要かと思ます、然し若い婦人が定見もなく渡米するは只に奢の心を生ずるのみて、其實質を見て來る事が少いかと思ますから、家庭を督む主婦たる人が渡米されん事を希望致ます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說

花屋のお花

三島霜川

丁度菊の咲く時分のこと。此の頃は、天氣が好い！、下町と謂へば、大概貧乏な人が餘計住むで居ります。此處も、その通り狹い、汚ない裏長屋に、お松フちやんだの、お照ちやんだの、お蓮ちやんだのお幸ちやんだの、大勢の女の子が遊んでゐました。何れも七ッから八ッ九ッの少女ばかり。ふと氣が付くと、日頃遊び仲間のお清ちやんといふ子の影が見えません。そこてお松ちやんは、お照ちやんに訊ねました。

「ね、ちよいと。お清ちやん、何うして？、今日朝から遊びに出ないのね。」

「私、知らないことよ。」

すると、お蓮ちやんが、

「まア、皆さん、まだ知らないの。お清ちやん許では赤ン坊が亡くなッたのよ。」

「え？、お清ちやん許の赤ン坊が亡くなッたの。」

と皆は、大騒。此の騒を聞いたか、聞きませぬか、長屋の一番端の家の戶口に凭れかゝつて、奇麗な眼のうちに、一杯涙を溜めて居る子がございました。それが、お清ちやんでございます。お清ちやんは、熟と空を眺めて居りましたが、その時、急いで家の中へ飛込んて、阿母さんの傍へ參りました。

「阿母さん、辰坊は、何うして死んで了つたの。」と訊ねますと、阿母さんは、心配で、窶れた顏を此方へ向けて、「それは、お前、病氣が惡くなつて、亡くなつて了つたのだよ。」

「病氣が惡くつて？……」とお清ちやんは、少時考へてゐて、「それぢやお葬式を出さなくつちやならないでせう。何時出すの。」

「え、お葬式かえ。」と阿母さんは、困つた顏をして、「お葬式はね、阿父さんが歸つてお出なさらなくつちや出されませんよ。」

「さう、ぢや何故、辰坊にお花を購つてやらないの。」

「お花もね、購つて供へて遣りたいけれども、阿母さんはお錢が無いもんだから……」

お清ちやんは、何んとも謂はずに、外へ出て行きました。

此の裏長屋から三四丁行つたところの右側に一軒の花屋がございました。もう夕方ですから、燈火が點いて、その光が、白菊黃菊に映つて、その美しいこと、謂つたらありません。花屋の娘のお花ちやんは、此の美しい花の凋まないやうにと如露でもつてお花へ水を注けて居りますそれて、花は露が宿つたやうで、一倍美しさが増すのでございます。そこて、お清ちやんがやつて來て、

「あの、お花を頂戴な。お花ちやん。」

お花ちやんは、振向いて見ると、近所ですから、偶時には遊ぶこともある貧乏人の子だものですから、嫌な顏をして、

「貴方、お花が欲しいの？」

と邪慳に訊ねました。

「え、お花を頂戴な、と謂つて、また、

「あの、奇麗なのを五六本！……」

「五六本？……ま。」とお花ちやんは、驚いて「そりや賣ることは賣りますけれども、五六本だと、隨分高くつてよ。今年はお花が高いんてすから、貴方。まけて進げても六錢位よ。」と此の六錢に妙に力を入れていふ。

「六錢位なら、丁度好いわ。」

と謂ひながら、お清ちやんは、汚ない錢入の中から、銀貨を一つ取出しました。而も光つた銀貨！十錢の銀貨!!

お花ちやんは、びッくりして「一體、お花を其樣なにどつさり何うするの。」

「辰坊にやるのよ。」

「辰坊つて誰れ？」

「家の赤ン坊よ。」

「赤ン坊が、其樣なにお花を何うするの、奇體ね。」

「赤ン坊が亡くなつたのよっ」とお清ちやんは急に啜上げて、「そいてね、お花を供へて遣るのよ。」

お花ちやんは、その時如露を下に置いて「そして、そのお錢は何うしたの。」

「此のお錢？……これはねえお使や、お手傳をして、餘所の叔母さんから貰つたのよ、それを貯めて置いてね……」

と謂つた時に、お花ちやんの方が、眼のうちに涙を一杯にしました。そして直に、菊を一束、束ねたまゝお清ちやんの手に渡しました。お清ちやんは、心配さうに、

「ま、大變……此樣なに要らなくッてよ。これだけぢやお錢が足りないから……」

「否、いゝえ、お錢なんか要らないことよ。早く持つて行つて赤ン坊に供へてお遣りなさいよ。私、叱られたら、譯を然う謂つて謝りますから！……」

とお花ちやんは、密と涙を拭ひました。

お清ちやんは、强つて爭はず、菊を抱えたまゝ悅しさうに駈出して歸りました。

その後を見送つてゐて、

「ま、お清ちやんの悅しさうだこと！、那の子のお蔭て、私も、はじめて他に慈悲を施したわ。なか〳〵十本や二十本のお花には代えられないことよ……此の心配は！」

お花ちやんは、またお花へ水を注け始めました。その片頰には、眞とに愉快さうな笑が漂つてゐた。併し眼には、涙が宿つて居りました。（をはり）

◎賢母スザンナ

龜山郭公

今を去る二百餘年の昔、英國の一地方エプオルスに一人の賢母あり、名をスザンナと呼ぶ、スザンナ十九歲の年に牧師某に嫁し、十九人の子を擧げたり、中に最も著名にして、世界に大なる德を建てたるは、ジョン、ウエスレー、と呼ぶ「メソヂスト」派の開祖なり。花の如き、此の多くの子供等は、溫き母の愛に養はれ、和氣靄然として、笑顏を以て其慈母なる教師の周圍に環集して、或は戲れ、或は學び、毎日午後五時には、各自一定の敎訓を讀み、九時には必ず床に就く、子は母を賴み、母は善き忠言を與へ、又各兒に每夜一定の課業を授け、且偉人の面白き物語りなど話し聞せ、常に熱心に子供の爲に計りたり。我意は凡ての罪惡と不幸の原因となるものなれば、自己の希望は履行すべからず、服從の美德を以て幸福の源泉なりと、信じ居たれば、時に子供の泣き叫びて、我儘せんとするも許さず、靜に「ドーゾ何々ヲ下サイ」と丁寧に求めざれば、婢僕とても命に從はしめず、約束は固く履行するやう、所有權は重じて失はざるやう過失は再びせざるやう、極めて丁寧親切に成功の法を指示せり、斯る家庭なれば、子供の發育の美なるは勿論にして、此の多くの兒輩は皆な敏く、溫順に生長し、長幼の別を立て、互に相讓り、克己よく其母に事へ、皆活社會に出てし後と雖も、母を尊敬し困難に接したる時の最良保護者と思意せり、母も亦た智と勇とを以て常に身を守り、善く子女を導き訓へたり、斯く育兒の任を盡し、家務を調理し、一生を繁忙と貧困との內に過して、毫も嫌厭の色なく、終始一貫して、心氣壯快に、精神の活達なる、而て能く其生涯を優美ならしめしもの、彼女の如きは實に稀なり。

▲妻が持參の此品ゆゑ

破產したる一紳士嘆じて曰く「余をして破產せしめたるものは、愛する妻が持ち來りたる銀製の茶器是れなり、茶器にして銀製ならば、其他の諸器、家屋、僕婢の類に至るまで、それに應じて奢らざるべからず、而して是れ余の今日零落したる所以なり」と、一の美麗なる道具を買へば、十の美しき道具を買はざるべからざるに至るべければ、人は最初の欲望の起りたる時、宜しく是れを制止せざるべからず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

共同力を家庭に應用す可し

林學士　松波秀實

◉共同の竈　先日三島醫學博士の說には飯を各戸で焚かず一ヶ所で焚いて、これを各家に配つたらよからうと云ふ說があつたが、それは一寸六ケ敷いことかと思ふから、自分は竈を一町村に一ヶ所備へて置て、各戸の飯を其處に焚きに往くことにしたならば、第一燃料の經濟であるのみならず、火災を起す等の危險もなくして、餘程都合の宜いことではあるまいかと思ふ

◉共同湯道栓　日本人が湯を使用することは、水を使用する程に多く用ゐるが、水道を市で持つて居るやうに湯道を市で經營し、一ヶ所で湯を沸し、これを鐵管て各家の需用に別けたら至極便利であり且つ經濟であらうと思ふ、臺所の水道栓の次に湯道栓を設け、尚ほ冬期は室内の暖氣を採る爲めに其管を室内に引く事も出來て、都合がよい、又た洗濯用の湯も風呂桶への湯も皆此市設湯道よりして供給を受けることにしたならば、安い費用で便利なことが出來るのである

◉町村共同湯　東京では多く湯屋が營業的に風呂を營んで居るが、これを町村が組合的に風呂を設け、其組合員のみ安き價を拂つて入浴することにしたならば、現今營業的に作られて居る風呂よりは今一層立派な物が出來、且つ組合の力で何んな嚴格の規約を設けることも出來るから、經濟、衛生、風紀の上から云ふも策の得たるものかと思ふ

◉共同音樂堂　ピヤノがよいと云ふても現今の日本社會では家庭一般に求むることが出來ない、且つ適當なる音樂堂もない譯であるから、町村共同の力でピヤノ其他の樂器類を求め、音樂堂を一ヶ所に設け、其所にて組合の人は老幼男女の別なく樂しみを享ける事にしたならばよかろうと思ふ

詠進歌募集

勅題　新年河

右明年の宮中歌御會始めの勅題なるが我が會員より詠進せらるる方は一人一首を限り本發行所に來る廿五日迄に送られたし發行所は之を正式に淨書して其筋に奉る都合を計る可し若し我が會員にして撰歌の榮を賜はるが如き事あらば獨り其會員の面目のみならず我會の名譽とする處なれば奮て御寄稿あらん事を希望す

◎『茲までお出て』

久津見蕨村

◉『こゝまでお出甘酒進じよ』と云つて子供に歩行を敎へますのは、何の地方でも同じことだと想はれます。古くからある言葉ですから、決して惡いことではありますまいが、併し子供がヨタ〳〵そこまて參りましても、誰れも甘酒をやりません。其『甘酒進じよ』と云つたは全く虚言てあります。

◉素より此年頃の子供は、未だ其言葉の意味を解しませんから、親なり姉なりが虚言を吐いてをることは存じませんので、何にか歌かなんぞであらうと思つてをるてせう。ですから實際は眼に見えるほどの害にもなりはしますまいが、扨て如何です。見す〳〵虚言を唄つて敎へてをるのです。子供を虚言家に仕上げやうと想ふ親は格別ですが、さうてなくば甚だ宜しくないことではありません乎。

◉それから亦能くあることてすが、子供が夜など中々眠らない。寢ろと云つても云ふことを聽かない時などに、『明朝は何にを買つて上げやう』の、又『淺草へ連て行つてあげやう』のと云つて『だからお寢なさいと』無理矢理に床に就かせます。所が明朝になつても何にも買つてやらぬ。無論淺草へも連れて行かない。併し子供は忘れてをるから、まあ無事て濟んてをるが之れが亦虚言てはありません乎。『甘酒進じよ』よりも輪をかけた虚言て、六づかしく云へば子供を欺瞞するのです。

◉そして斯う云ふ事は毎日〳〵何度となく繰返へされてをります。如何立派な家庭でも、斯う云ふ虚言の一つや二つない所はないやうです。して見ますと歩行の習ひ初めからして子供は虚言で養育されてをるのです。時によると子供の周圍が全く虚言て堅められるやうなことがあります。之が家庭敎育の宜しきを得たものてありませう乎。

◉子供が七八歳以上になりますと、動ともすれば虚言を吐きます。是れ恐らくは『甘酒進じよ』的の虚言で堅めた家庭敎育の結果てありませう。其時になりまして、前々親が虚言を吐きつゝ育てたことは忘れて仕舞い『此兒は能く虚言を吐く兒だ、仕方のない兒だ』と讒りつける親があります。之れは親と兒と何らが惡うございませう。云ふまでもない之れは親達の方が惡い、自ら惡事を敎へて置いて、讒り附けるとは、如何にも慘酷極まることではありませんか。

◉お正月には紙鳶を買つてやらう、鞠を買つてやらう、宜い衣服を買つて上げやうなどゝ云つて暮の忙がしい間騙して遊ばせて置て、一月になつたら知らぬ顏をする親がありますが、斯う云ふ親は自から子供の虚言を讒るの權利を捨たも同樣てす。言行一致の立派な人物を造らうと想へば、先づ親兄姉からして『茲までお出て』的の虚言を一切云はぬことにしなければなりますまい。

◎家庭用品の紹介

婦人達が家庭にて使用せらるゝ物品にして、新に善きものが出來たならば、之を紹介して、便利を與へたいと思ふて玆に紹介します。

クレソール石鹸

此の石鹸は消毒殺菌に有效なるクレソール石鹸液(獨逸名リソール)を、學理上から穩善く加味したもので、殊に高橋博士と下山博士とが指揮監督の上で製造したものであつて大層善い物であると思ふ。

クレソール石鹸液(リソール)といふ藥は、石炭酸よりも數層倍殺菌消毒の强力なる新藥であるが、皮膚を刺激したり、損傷するといふことはない。爲に獨逸國では、警察令を以て、產科、婦人科の醫者は、必ず此藥を備へなければならないと云ふことになつて居るので、吾日本政府でも、去にし六月内務省令第十七號を以て、消毒藥として使用せよと云ふことになりましたが、石炭酸は產婦小兒などには、用ひたあとて、皮膚が爛れるなどの害を來すとがあつていけないが、此のクレソールは然樣な虞はない。消毒藥として最も上等なものである。然るに是れは舶來品で一磅につき貳圓もするもので、斯樣に價が高いから、用ゐ難いものであつた。依て下山博士は種々に心を苦めて。遂に此のクレソール石鹸液を拵へることを發明せられたのである。而して其價も是迄の三分の一にも當らない程安く出來る樣になッたのである。實にいみじき發明といふべきである。

此の發明に由て、クレソール石鹸液(リソール)が安くなつたので、高橋博士は下山博士に相談して、クレソール入りの石鹸の製造せらるゝことになつた。是れが即ち玆に紹介する所の石鹸である。此の石鹸は未だ廣く賣藥店などに託してないので、世に弘まらないのであるが、赤十字社病院京都醫科大學などを始め、醫師の手には、隨分用ひられて、傷口など洗ふに、石炭酸の代りに、此の石鹸を使用して居るといふことてある。

されば此の石鹸は家庭に備へ置きて、子女が手足を擦り剝くなど、輕き怪我をした時に、洗つてやれば直に癒るし赤子の腋の下や、其他のたゞれた處を治することも出來るし、殊に皮膚病には、大抵のものに效く樣てある。これから寒さに向つては、ひゞや、しもやけなども是れて洗へば癒るし、又產婦や婦人病の洗滌藥に用ゐて效能がある。それから傳染病者の吐瀉物等の如き、汚物の附着したる物を消毒するに、是迄は蒸氣で消毒するが、藥液の中に入れて煮沸するかの數法あれども、何れも衣類の如きは品質を損して、何にもならなくなるが、此石鹸を以て普通洗濯する樣にして消毒が出來るから、至極便利で、ペストの流行地抔で之を常に用ゐれば、其豫防が出來る。又普通の石鹸と同樣に身體を洗つても、善き原料のみ用ゐてあるから、垢が能くおちるし、あれる樣なこともない。唯缺點ともいふべきは、香が宜しくない。是れはクレソールの臭氣であつて、何うも仕方がないさうである。併し石炭酸程に甚しい臭氣のものではない。少し嗅ぎなれゝば何ともなくなるのである。何よりたしかなことは一度試みた人は、外の石鹸を用ゐなくなるのでわかる。而して其價は壹個拾五錢で、大きさは二寸に一寸餘りの長方形で、赤く塗つた葉鐵製の箱に入つて居る。總じて最初は善き原料で製造したものでも、商人に託して製造せしめると、段々原料を麁末にして、最初の物とは其質を異にし、遂に效用の無い物となるのが世間の常態である。是の故に博士達は之を商人に託さず、常に自ら製造して居られるので、何時も同一の良き原料で出來て居るといふことである。記者は博士達に未だ一面識もないから、固より依賴を受けもせぬのであるが、斯る善き品を廣く家庭に紹介するとは、記者が義務であると考へて、玆に信用すべき專門家より聞及んだとを述べて置くものである。

尚會員達にて此の石鹸を望まるゝ人々へは、麴町區下二番町大日本女學會に於て取次の勞を執ると云ふ。

此のクレソール石鹸は壹個の定價金拾五錢なれども、本會々員に限り壹個金拾貳錢に特に割引すると製造者よりの申出である但し地方へは壹個につき郵送料が四錢かゝる尤も半打ならば拾錢壹打ならば拾五錢で濟みます。

◎家計支出科目一覽

家政子

家計を整へる第一着手は先以て年の始めに於て一家の支出科目を確定する事である左に其の參考されたら便利ならん。

項	目	節
經常費	一、飲食費	米代、副食費、味料、酒代、
	二、被服費	父母、主人、主婦、子供、
	三、燃料費	薪、炭、油、瓦斯、電燈、
	四、住居費	借地料、借家料、修繕費、庭園費、備品費、
	五、義務費	養親費、租稅、手數料、下婢給金、親類子弟學費、
	六、衞生費	藥代、散髮結髮費、洗濯費、湯錢、衞生組合費、
	七、敎育費	月謝、新聞雜誌、圖書購買費、紙筆文具、敎育積立金、
	八、慰安費	主人交際費、主婦交際費、車代、電車賃、贈物費、宴會費、近隣交際費、通信費、慰勞費
臨時費	九、婚姻	
	十、葬祭	

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎新年互禮會　例年の通り三十九年新年互禮會を一月十七日午後一時より九段坂上偕行社に於て開會の筈なり

◎評議員會　本年の納會を去る十三日開會したり出席者は近衛理事九條監事を始め評議員岡部坻子千家俊子柳谷千代子關郁子仁杉歌子南鄕柳子坂井春子佐藤猶子鹽島文子澁谷ちわ子森林菊子有島幸子三井壽天子三井榮子新山雅樂子仁尾繁子松浦島子高木鐐子中山幸子淸浦錬子大谷加ち子鄭濱子棚橋詢子東鄕鐵子神山万佐子の諸氏にして卅九年度の收支豫算案及韓國支部設置の件等を議し折柄來會せし第一軍經理部長岡本一等主計正の婦人會の後援について感謝の意を陳べられ午後五時頃一同散會したり

◎韓國に支部設立　從來韓國には各領事館に委員部を設立しあるのみにて未だ支部の設立を見ざりしが今回評議員會の決議に基き韓國統監府所在地に支部を置く事となり同時に韓國人は正會員となす事に決定したり

◎沖繩支部總會　同會は本月十七日開會せしが總裁妃殿下御名代として同地滯住幹事日比松子氏選定せられ式場に於て御諭旨を賜ふたり

◎大山元帥の挨拶　此程凱旋せられたる滿州軍總司令官大山元帥及び兒玉大將は去る十四日本會に向つて副官步兵大尉子爵川上素一氏を派遣され交戰中本會が出征軍人に對して盡したる功顯著にして爲めに陣中の士氣を鼓舞し能く後援の實を擧げたるに付き深く感謝を表する旨の挨拶を陳べられたり

◎元帥に紀念品を贈る　別項所載の如く大山元帥より深厚なる挨拶ありたるにつき本會々長公爵夫人岩倉久子氏は評議員高木鐐子氏と共に去る十六日元帥を其の邸に訪ひ本會の徽章ある金製手鈕に感狀謝を添へて贈呈したり

◎兩大將に贈呈の感謝狀　本會より本會の徽章ある金製手鈕に添へて大山、東鄕の兩大將に贈りたる感謝狀の大要は左の如し

我軍は開戰以來百戰百勝世界史上未曾有の大戰を經て遂に克く大敵を屈し空前の大功を奏せらるゝに至れり是れ天皇陛下の御稜威と將士の忠勇武烈に基くと雖も抑亦閣下重厚寛仁統卒指揮の宜しきを得たるに因るは中外の瞻望嘆美して措かざる所其の偉勳は長へに汗靑を昭さん

今や總司令部幕僚を率ゐて凱旋せらる久子等茲に本會を代表して薄か紀念品を贈呈し歡迎感謝の意を表す希くは之を留存せられんことを

愛國婦人會々長公爵夫人　岩倉久子

◎淸人の特志　在東京なる湖南長州人范宗廉氏の紹介を以て陳由氏に本會より漢文の飜譯を依頼し其の謝禮を贈らんとしたるに同氏は本會の趣旨を贊成して謝禮を受けず是れを寄附せられたり奇特の至りと云ふべし

◎軍隊より謝狀　當所發行の『愛國婦人』は毎軍隊慰安用として東京郵便局の手を經て各軍に寄贈し來りしが今回左の通り謝狀を送られたり

前略當部出征中は數ケ月の久しき貴社發行の新聞引續き御寄贈に預り各野戰郵便局に於ける縱覽所を賑はし以て軍人軍屬に多大の慰藉を與へ曩にも申し進候通り嘖々好評を博することを得候は偏に貴社御厚志の致す處にして感謝措く能はざる次第に御座候茲に凱旋當部の解散せらるゝに際し重て謝意を表し候

元韓國駐剳軍東部郵便部長中山準作

尚第三軍兵站監陸軍少將小畑蕃氏よりも同樣主旨の禮狀を送られたり

◎繪葉書寄贈　神田區吳服店伊勢丹商店より繪葉書二萬千五百枚を本會の手を經て陸軍恤兵部に寄贈したき旨願出てたるにより其筋の許可を得て滿州殘留軍へ寄贈方取計ひたり

◎軍隊歡迎　東京支部に於ては軍隊歡迎場を品川驛と新宿驛とに設け職員は素より會員中の有志者は順番に歡迎しつゝあるが此節品川方面の歡迎餘り振はず且つ會員中には職員にあらざれば歡迎出來ざるやう心得らるゝ方もありとの事なるが會員は誰れ彼の別なく歡迎場に入る事を得る筈なれば此際なるべく多數の出席ありたきものなり

◎各地支部狀況

◎東京支部　深川區幹事部に於ては去る九日十日兩日同區内平淸樓に於て慈善演藝會を催し落語講談長唄手踊少年音樂等あり非常の盛會にして幹事方等にて多くの寄附金もありたり

◎德島支部　同支部に於て第十一師團凱旋に付き支部にては停車場構内に兵士歡迎所を設け篤志看護婦人會と聯合し歡迎所内に於て茶菓を饗することゝなし去月廿二日より本月六日まで會員數十名連日出張待遇の任に當れり尚要所〳〵には職員を派遣して歡迎を爲したり且つ救護資金を得るの目的を以て本月三日德島公園滴翠閣に於て慈善音樂會を開催したるに市内重なる會員は之が幹旋者となり各々事務を分擔し奔走盡力せし結果會場の秩序整然として些の遺憾なく終始圓滿に擧行するを得入場者無慮千二百餘名に達し入場料二百九十餘圓に上り寄附金十七圓五十錢餘あり稀なる盛會なりし

◎岡山支部　同支部内英田郡幹事部にては去月中旬より出征兵士に新聞紙寄贈方を倉敷町有志に計り毎日蒐集して戰地なる各兵站司令部へ向け寄贈し居たるが一日平均四十五部の多きに達せりと又た同幹事部にては遠き以前より同町有志の寄附を募り軍人遺家族救護に努め居れるが之れが世話人は妹尾郡長夫人を初め仁木郡書記、山本警部、花房郡郵便局長等の重立ちたる夫人にして各自受持區域を定め大いに奔走しつゝあり

◎山口支部　同支部佐波郡幹事部に於ては去る三日防府町松崎小學校内に於て幹事會を開らきしが出席者は池田、林、富永、秋山、長井、國佐、藤村、時山の幹事を始め一般會員幷に私立裁縫女學校生徒等無慮五百名にして定刻となるや林春先氏開會の趣旨を陳べ次に中山師範學校長の有益なる演說御園小學校敎員の談話等ありて午後四時過ぎ閉會したるが當日來賓の重なるものは毛利公爵夫人、揖取男爵夫人等なりし

◎函館支部　同支部にては此程役員會例會を開らき左の報告項目につき協議可決したり

一、本會戰後經營に關する移牒の件
一、遺族癈兵門標掲出並に優待章配布取扱方の件
一、會員增募及び贊助員勸誘の件
一、時局中職員會員個人の功績取扱方内牒の件
一、愛國婦人會機關新聞「愛國婦人」實捌擴張の件
一、明治三十九年一月例會日時決定の件
一、凱旋軍隊謝狀報告の件

◎京都支部　大山元帥及黑木大將凱旋の時は停車場にて職員及會員有志者多數參集し且つ大山元帥には紀念として三ツ組木盃を黑木大將及久邇宮殿下には果實盛籠を贈與したり

◎石川支部遊說日誌（三）

奧村五百子刀自一行

▲十一月十七日　本日和倉に滯在

▲十一月十八日　午前十一時三十分和倉發午後一時七尾着直に會場なる高德寺に至る郊端には丹羽幹事部長を始め幹事十數名出迎ばれたり仝三時より開會聽衆約四千餘名丹羽顧問開會の趣旨を述べらる長副長の挨拶奧村女史自分の講話は例の如し此日鹿島郡にての新入會者は百二十名ありたりと云ふ閉會を告げしは五時なりき當幹事部は開戰以來大に活動し各幹事の手工品或は他より寄贈せられたる物品を慈善市を開て賣却し其收得金を以て戰死軍人の香奠に充て其他公共事業に資せしこと夥しき由にて已に今年二回の慈善市の收得金三百餘圓を資本として生產受與を企つる計畫なりと當幹事會員大に奮發の模樣に見受けたり

▲十一月十九日　午前九時七尾を出發し瀧尾村に向ふ丹羽幹事部長を初め幹事事務員同行せられ此日は雨烈しく來會者如何を氣遣ぜしも會場なる瑞泉寺は殆んと立錐の餘地なし午後二時半開會を告ぐるや高宮郡書記丹羽顧問に代り開會の趣旨を述べ次に長北堂の挨拶自分奧村女史の講話は例の如くに終を告け閉會したるは正に五時頃なりき此日聽衆約一千五百名に達し七尾に着再び野崎旅館に投す歸宿後各幹事續々來訪せられたり

▲十一月廿日　午前九時七尾を發し仝十一時三十分中島に着學校生徒有志者幹事會員等の盛なる歡迎を受け奧村女史と自分は山本林作方に支部長副支部長は木下夏方に其他の一行は白善旅館に投す午後二時同地蓮淨寺にて講話會開催聽衆約千餘名新入會者多數各委員部へ申込をなしたるもの百餘名ありたりと云ふ當は小村なれとも本會員も多く一致協力して國家事業に中島汲々たり會員は毎土曜日に集合或は編物をなし或は裁縫をなし其現品を或は寄附し又は其賣却金を以て軍人の遺族を救ひ萬一定日に欠席せば三錢の金を收むと云ふ昨今麥畑を耕作し會員自ら種蒔をなし肥料も施せば刈上けもなし其稈を以て眞田を製作する計畫なりと云ふ殊に本年は春秋兩季に養蠶をなし金澤地方へ是が傳習生を派遣製糸麥稈眞田の兩樣を講習せしめたりと其桑を植るや各會員の家屋の緣根に數株宛を分植したりと實に其緻密なる其熱誠なる全國の模範と稱するも敢て過言にあらず眞に賴しき團體なりと謂ふべし

▲十一月廿一日　午前八時中島村出發羽咋郡富來に向ふ幹事會員郊端迄見送られ鹿島郡幹事朝日、山本兩氏は富來迄送られたり羽咋郡幹事部長大津氏本多郡書記等は途中迄出迎はれ共に腕車を驅りて仝十一時五十分富來に着富來館に投す午後二時より仝地本光寺に於て開催聽衆約千五百名本多郡書記の開會の辭に次て長副長の挨拶奧村女史自分の講話あり仝四時十分閉會せり新入會者多し

▲十一月廿二日　午前八時富來出發高濱町に向ふ大津幹事部長本多郡書記篠原事務員同行せらる一行は十一時三十分着大石旅館に投す來訪者續々ありたり羽咋町飯貝幹事同所迄來られたり午後一時卅分仝町安誓寺に於ける講話會に臨みたり聽衆約一千餘名講話の順序は例の如し午後四時過閉會新入會者多し午後八時三十分より仝町補習學校生徒愛國婦人會員等の催に係る茶話會に臨み（自分のみ）朝鮮國の事につき一場の講話をなし散會したるは午後の十時にてありき

▲十一月廿三日　午前九時高濱を發し羽咋町に向ふ早川町長を初め幹事會員十數名郊端迄見送られたり飯貝幹事を初め十數の役員會員は途中迄出迎はれ一同十一時過羽咋町に着林又旅館に投す來訪者夥し午後一時三十分煙火を打揚け開會を報するや本多郡書記開會の趣旨を述べらる他は例の如し聽衆約三千餘人場内立錐の餘地なきも其靜肅なること驚くべきものたり閉會を告けしは午後四時三十分なりき本日の會場は本念寺なりき新入會者多し

▲十一月廿四日　本日は休みなるを以て午前十一時より各幹事部會員打集ひ濱邊に散步を試み後柳亭に於て晝餐を喫し五時歸宿せり夫れより正福寺に於て同地機織工女等の爲に一場の講話開催聽衆約一千餘人自分例の如く講話し仝九時閉會せり本日迄に羽咋郡にて申込をなしたるは三百十一名の多きに達せり

▲十一月二十五日　午前九時過一の宮氣多神社に參拜し歸宿の上晝餐を喫し飯山へ赴きたり大津幹事部長飯貝幹事を初め當地にて最も熱心なる林、西橋の兩婦人も同行せられたり羽咋郡巡回中は澤田署長何時も先導保護されたり仝二時より正光寺にて講話會開催聽衆約二千餘名順序は例の如し閉會したるは五時なりき新入會者多し本日同寺境内に慈善市を開きたり仝地方も婦人の活動盛なり

（宮樫眞寄子記）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎各國癈兵院の狀況

▲癈兵院の沿革及癈兵の定義

◎癈兵の定義　癈兵院の事を論ずるに先だつては先以て癈兵と申すは何者であるかと云ふ事を解せねばなりませんが癈兵とは戰役其の他の軍務に基因する負傷又は老年等の爲め服役に堪へざるに至りたる軍人を總稱するのであつて其程度に依りて軍事上一切の勤務に堪へざる者を全癈兵と申し野戰に堪へざるも衞戍勤務若は文官として職務に堪へ得べき者を半癈兵と申します

◎古代の沿革　國家は其擁護者たる軍人であつて兵役の爲めに癈兵となつた者を充分に保護すべき責任がありますから古來よりして文明國は癈兵の救護を等閑に附して居りませんで希臘時代に於てはアゼンス國はこれ等の軍人に對しては生計費を與へ演武場に於ては特に名譽の場所を與へ歷山大王も其特典の範圍を擴張して其兩親及近親まで及ぼして居ります羅馬古代には老兵に對して生活に必要なる土地を與へ且戰利品の分配に付ては癈兵に多額の物を分與して居りますが癈兵院の設備は此時代には未だ萌芽もありません

◎中世　中世の初にシャートル帝は寺院に對して癈兵を收容すべき義務を課して僧侶も又自己の天職と心得て癈兵の救護に盡瘁して居りましたが其後第十三世紀に於てセントルイ王は十字軍の盲目兵三百名を給養する爲めにカンズザアンと稱する病院を巴里に建てました其後十六世紀に於てフランファ一世は癈兵を城寨内に收容して終身其給料の半額を生活費として支給しアンリー三世は千五百七十五年癈兵たる將校及兵士の組合を組織し巴里に其收容所を置きルイ十三世はリセリユー宰相の發議に依つてビセートル城内に戰爭に依る癈兵を收容し終身之に糧食被服其他生活上必要なる一切の物質を給與致し遂にルイ十四世に至り更に其規模を大きく致し有名なる癈兵院を巴里に建てましたが其後他の歐洲諸大國も之に倣て癈兵院を設立する事となりました

▲佛國癈兵院

(一)沿革　佛國癈兵院は千六百七十年ルイ十四世の建築に屬しますがルイ十四世は其以前に於ける癈兵が如何にも困難し惹て軍隊の威嚴にも關する事と思ひまして勅令を發し「軍旗の下に立ち若は本國に對して軍事的獻身を爲したる後老年者負傷者又は衰弱者と爲りたる陸軍々人にして何等の保護なき者に對し幸福なる生活を保障する爲め」其生活所として五千人を收容し得べき宏大美麗なる癈兵院を巴里府に建設し陸軍の經常費及臨時費の百分の二を引去りて維持費に充てる事に定めて此建築は千六百七十五年に竣工致しました(念の爲に申す今は千九百五年であります)

(二)發達史　同院は始めには單に癈兵のみでなく國王の寵臣たる老年者も收容して居りましたが是は弊害あるので其後癈兵のみとしました革命時代の政府も之を尊重致して千七百八十九年同院の收入は一ヶ年四十万六千法に上り更にナポレオンは之を擴張して一ヶ年六百万法の收入を寄附致し更に四ヶ所に分院を設立しましたが同帝は絕へず戰爭した爲に癈兵が增加して收容人員八千名まてに達し遂に悉く收容する事が出來ないと云ふ狀態になりました然るに千八百十一年に癈兵院の制度を改良し同院の基金及財產を悉く國庫に移し癈兵院の費用は政府の豫算により支出するの組織となり第十九世紀に入つてより恩給法の改正に伴ひ入院者の數も減じましたから各分院を癈し巴里癈兵院のみとなり陸軍の癈兵のみならず海軍の癈兵をも入れる事となりました

(三)其制度　收容の資格者は癈兵で退役恩給權を持つて居る者に限り其恩給の支給の代りに入院を許すのでありまして恩給を貰ひつゝ入院する事は許さぬ事となつて居る入院者には特定の服裝を爲さしめ入院中の衣食住の費用は一切官給として院内には圖書館病院寺院運動場園庭等の設備がある、

(四)今日の現況　軍人恩給額の增加地方團體に於て老年兵に對する優待及び諸官衙に於て採用の便宜を與へたる等の結果恩給を受けて自由の生活を營むを便として在院者の員數は著しく減少して千八百八十八年には僅かに四百名のみで宏大なる建物も其一部は他の官衙に用ゐられて居る

▲英國癈兵院

(一)チエルシー癈兵院　第十七世紀に於て英國王は佛國癈兵院の制度に倣ひチエルシー(陸軍の方)及グリーンウイツチに(海軍の方)癈兵院を設けましたチエルシー癈兵院は千六百八十二年チヤーレス二世に依りて建築に着手し千六百九十年に至り竣工しましたが同院を維持する費用として平年には陸軍軍人につき各人に對する一日分の俸給額に閏年には二日分の給料を引去りて其費用に宛て其建築物に癈兵約六百名を收容看護する設備を爲しまして恩給權を有する下士卒は恩給を受くるの代に之に入院する事を許して入院者には一定の服裝を與へ其被服の外に宿泊及糧食を悉く支給したる外に下士には每週五志三片兵卒には七片を給與する事になつて居る自由を貴ぶ英國の事であるから癈兵が入院すると否とは各人の自由であつて入院を欲せぬ癈兵には其階級に應じて一日につき一片半乃至三志七片半の終身增加恩給を與へて自由に生活せしむるが其支給は癈兵院の手を經て與へ其財源は癈兵院の基本財產より得る收入及國會の豫算に依る補助金とであるる千八百七十四年の豫算によると在院者五百三十八名に對し同院維持費は院外癈兵に對する恩給を除き二万九千七百三十一磅であつて實に著しい多額である其後恩給法の改正により入院者減じて僅かに四百名となつた

(二)グリーンウイツチ癈兵院　此癈兵院は老水兵其他航海者を收容して之を給養する爲め千六百九十四年ウイリヤム三世及メーリー二世に係り五万磅を投じて建築に着手しまして千七百五年迄には百名の收容に適する建築を終り其後建築の步に從ひて三百五十名を收容する事となりました此院の收入は當初國王寄附の財產世人寄附の遺產及強制的に航海業者に命じたる助力金によつて一ヶ年一万二千磅に達し其一半を入院者の給養費に充て他の一半を建築完成の費用に充て居りました其後千八百三十四年には航海者の共同基金中より二万磅を支出する事となり一ヶ年收入は十六万磅になりました此院には癈兵約千六百名程ありますが院外の癈兵約一万二千餘人にも院外恩給者として一ヶ年五磅乃至五十七磅を癈兵院より支給して居ります尚同院構内に附屬として航海業者の子弟を敎育する學校を起し其卒業者には海軍及商船の役員に採用する事となつて居ります此院の全盛時代はナポレオン戰爭で收容者二千七百十人に達しましたが同院の繼續については有力なる反對もありまして同院は同一職の人員數百を一團として生活せしめるので恰も中世に於ける隱遁所の如き感念を惹起し且つ不愉快なる難破等の罷慍に餘され院内生活も自己に興味なくして他人を利益する事更になく空しく歲月を經過する事となりまして少壯時代に於ける大膽なる企圖も自負に過ぎざりしを自覺し生活の不愉快なると同時に世人に於ても是れ等の名譽ある人々が歸鄕し近隣の子弟に對して戰爭の談話等を爲し士氣を鼓舞したならば反つて地方村治の爲めにもよき影響を受くる事となるべしとの議論が世上に大なる勢力を占めまして法律を以て癈兵院資金を恩給基金中に組入れ遂に千八百七十一年に本院を閉鎖する事になりました

▲獨乙國癈兵院

佛國及び英國に次て癈兵院の設立されましたのは普國であります同院は千七百四十五年フレデリック二世により伯林府オラニンボーム門前に設立されまして其後千八百九年には二十五ヶ所の地方癈兵院を設けましたが其後十二ヶ所に減じまして現今では獨乙國には普國の伯林ストルプ及カーハスハフエンの三ヶ所並にバウアリヤ國のベネヂクト、ボイレンに一ヶ所ウルテンブルヒ國のコンプルグに一ヶ所の癈兵院があります獨乙では癈兵院に入るものは全癈兵に限る事と定めて癈兵中でも特に看護扶助を要すべき者を收容保護するを目的として居りまして癈兵の狀態により獨立自營が出來るものと認めたならば退院させ假令へ本人の願によるも隨意には入院を許さぬ事となつて居ります此院でも在院者には恩給其他の補給額は一切支給を停止致し其代り食料衣服等は官給になつて居ります

▲米國癈兵院

米國は他國に比べて見ますと軍人の恩給及癈兵の救護は最も寬大でありますワシントン大統領の勸告に基きまして千七百七十六年八月廿六日に於て獨立戰爭に從事したる退役將校に對して七年間俸給の半額を與へる事と定め又當時國會は各州に對して課税の權を持つて居なかつたが癈兵救護に必要なる金錢は合衆國の名義で調達する事を許しました故に他國に比類なき恩給手當を受ける事になりましたがそれのみでない千八百六十六年には東部癈兵院を設け其翌年にはオハイオ州に中央癈兵院を設け同年ミルウオーキーに北西部癈兵院を置きました癈兵院の給養について歐洲諸國では恩給支給を停止して收容するのでありますが米國ではこれを停止しないで收容し殊に建物は國中氣候風景最も良好なる地點を選んで建て圖書室及娛樂室等の設備がありますから多くの癈兵は喜んで收容され溫き惠みを受けて居ります

▲附記

日本に於ても近く癈兵院の設立を見ることであらうが日本と西洋とは國情が違つて居るから本人が癈兵院に入りたいと云つても父兄や親族が承知もしまいし又た入院した者には恩給金を與へぬなど云ふとにしたならば入院するものは極めて少なからうと思はれる恩給金があれば圓滿なる家庭が作られるのであるから、故に恩給金を與へた上尚且つ是等國家に盡瘁した癈兵を收容慰藉するやうにしたらば喜んで入院するやうになるてあらうと思はれます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文披露

題『歳晩』

▲前栽の花　群馬　伏島たき子

麥は蒔きをへぬ、新米とり納めたる俵の數去年より少なきはいと物足らねど、農家の年中行事とにもかくにも果てにけり、いざ家事とりしたゝめ、暮れ行く年を送り、來ん年を迎ふるいそぎせばや、年の內餘日もあらぬ昨日今日となりては、今更に日頃の怠りいちじるく、いとまなきにひきかへて、日あたりよき前栽の水仙、福壽草など時を得がほに莟大きう、しづかに來ん年の元旦をまつやうなるも、心にくきかぎりになん。

▲選者曰　作者の家庭偲ばれて奥床し

▲黄昏だに　福島　横川千賀子

入日の影消ゆる黄昏だに心せかれて名殘は惜まれぬべし、況して一年の暮れ行く冬の末つかたになりぬるをや、年送り年迎ふ世の人のいとなみ繁き巷、門松ひさぐ聲、煤拂ふ軒端、よろづ春近きぬらん樣見えて、いつしかに籬の菊も枝を去り、岡の紅葉も梢離れて庭もせに散りしきし落葉さへ、木枯に吹き拂はれてことしの名殘は失せにしものを、人毎に年の內のなごりとゞめじとあせり合ふも宜なりや、さわれ其際にも新年を迎ふるうれしさ何にか譬へむ。

▲選者曰　歳晩の樣名殘なく寫されたり

▲榮ある暮　埼玉　水野淑子

今年てふ日數も殘少なくなりぬ、例ながら徒に過しつる月日を恨む人のみ多かりけり、己もそが一人にて、筆とれば拙きを歎ち、針もてば鈍きを歎く、聊も去年の此頃と異る事なし、さはれ世は又去年の如く悲觀すべき歳晩にはあらざるなり、戰は靜まりて國の光は世界にいよいよ輝き渡れり、斯くてめでたき世の樣を告げ參らせんため伊勢大廟へ行幸の御儀もあり、また幾多の困苦を凌ぎて君に盡せし丈夫の凱旋を迎ふる聲、鄙の果まで響き渡れり、げに勇ましき年の暮にこそあれ、いかで我も殘る隈なく家の事終へて、樂しき新年を迎へばや。

▲選者曰　吾も同じき心地こそすれ

▲遺れる人　大阪　富永才子

新春は旬日のうちにせまりて、歳末の忙しき中にも、來ん春を樂しみ待つ者多き折りから、獨り哀然たるは戰死者の遺族なりけり、素より生還を期せざりし人にはあれど、近く同僚の凱旋せらるゝを見ては、今更に生前の忍ばれて、追懷の情に堪へず、かたみの稚見らが指をりかぞへて新年をまてるにも、哀れ催して人しれず袖をしぼるらん、あゝ、一陽來復世は樂しき春に立かへると共に、鬱々たる溫風是等悲愁の家庭をおとづるゝや否や、いたましともいたましき限りなり。

▲選者曰　意味深ふして言の足らざるを憾む

作歌披露

題『浦千鳥』

○　大坂　富永才子
藻しほやくけふりもたえて冬の夜のうらさびしくも千鳥なくなり

○　北海道　西久子
須磨あかし吹わけられてしほ風に友よふ千鳥聲のさむけさ

○　東京　戸塚鐵子
夕しほのみつの浦浪うちよせてたちゐせわしきむら千鳥哉

○　靜岡　竹內幸子
ふきすさふ富士のねおろし身にしみて田子の浦わに千鳥なくなり

○　東京　岡田春子
住吉の浦の松かせおとたえて月すむ夜半を千鳥なくなり

○　靜岡　淸水初子
ふきあれし富士のねおろし音たえて三保のうらわに千鳥しはなく

○　愛知　平松いと子
あられふる音もかしまの浦風にみたれてちゝに千鳥なくなり

○　群馬　伏島たき子
磯山の松のあらしも音たえてうらやすけにもちとりなくなり

○　東京　河邊和歌子
ねさめせしその關守もあらなくに夜たゝねになく浦千鳥哉

○　愛知　山內靜子
ふきすさふ風にみたれて浦千鳥磯山かけに聲さわくなり

○　愛知　山內經子
月影のふけゆくまゝに和歌の浦友よひかわし千鳥なくなり

○　京都　渡邊豐子
浦つたひゆきかへりしてさよ千鳥こよひも月になきあかすなり

○　長野　金野やほふ
板屋もる月影寒し須磨の浦ちとりなくねも遠くきこえて

○　茨城　綿引蓉子
むさしかた御代のさかえをちよ／＼と友よひかわす浦千鳥哉

○　青森　葦澤ゆき子
船人もいくたひ夢ややふるらん浦風寒くちとりなくねに

○　埼玉　水野淑子
みふねのる人の寒さもおもはれて聲もみにしむ浦千鳥哉

○　三重　柄田淸子
君か代をいはふとそきくいくさ船つとふ浦わに千鳥なく聲

○　東京　莊秀子
さよふけて窓の戸おせは琴の浦月かけさえて千鳥なくなり

○　東京　長鹽錠子
沖へなる友もさそひて浦なみのよするまに／＼ちとりむれくる

○　愛知　市橋いく子
いくさ船かちてそかへる須磨明石千代よひかはしなく千鳥哉

◎歳晩に際して

短文和歌募集のことを始めてより、回を重ぬること短文九回、和歌十七回、回數より云へば未だ初歩たるを免れずと雖も諸姉の熱心なる、一回は一回より投稿數の多きを致し、近き將來における本欄の發達は今より期して疑はざる所也、こゝに乙巳の歳を送ると共に、投稿の數を揭げて諸姉に謝し、併せてますます金玉の名什を寄せられんことを祈る

▲短文

題目	芳名	揭出	投稿
▲水晶簾	鈴木八重子	三篇	十八篇
▲妙華	浦月子	五篇	二十篇
▲琴の音	富永才子	六篇	二十三篇
▲是は何	鈴木安枝子	四篇	十六篇
▲雁一連	浦月子	六篇	十九篇
▲隱諱怒濤	浦月子	六篇	三十篇
▲淸少納言	鈴木安枝子	五篇	二十五篇
▲紫羽錦繡	横川千賀子	五篇	十九篇
▲歸雁一聲	岡田春子	六篇	五十三篇
▲前栽の花	伏島たき子	三篇	十九篇

▲和歌

題目	芳名	揭出	投稿
▲祝降誕	日高可壽子	外十一首	三十二首
▲祝三週年	岡田春子	外十四首	二十一首
▲行啓	浦月子	外九首	十二首
▲花下言志	立藤敏子	外五首	十五首
▲靖國神社	石川類子	外四首	十二首
▲日本海々戰	太田元子	外十首	三十五首
▲螢狩	柴田常子	外十首	二十八首
▲朝顏	四尾保子	外四首	二十二首
▲月前遠情	北村雪子	外四首	十六首
▲露	浦月子	外九首	三十三首
▲月	金野やほえ	外四首	十八首
▲雁	岡田春子	外七名	二十四首
▲觀菊	柄田淸子	外九首	三十二首
▲落葉	柄田淸子	外九首	三十八首
▲紅葉	山中益子	外二十八首	五十六首
▲初雪	長鹽錠子	外十七首	四十八首
▲浦千鳥	富永才子	外十九首	五十首

◎第十八回作歌募集

△歌題　春風　△選者　某公爵夫人　△作歌一人一題三首以下　△期限三十九年一月十日限り　△優等の作歌は本紙上に披露す可し

◎第十一回短文募集

△題　朝　△選者　編輯局同人　△文體隨意　△一行十八字詰十五行以下葉書に認めたるものは採らず　△期限三十九年一月十日限り　△優等の作は本紙上に披露す可し

▲地方の讀者に告ぐ▼

郵便にて本社より直接發送を受けらるゝ讀者の帶紙に盡の朱印あるは前金切れの印しなるが本年內に送金なき方は新春に出る美しき本紙を手に取る事が出來ません

新案カルタ形家計簿

愛國婦人發行所考案　一組百枚金拾五錢

◎家計簿の作り方はなるべく簡單にして手間取れず且つ正確に落なく記帳の出來る仕組の者で無くては役立ちませんが本簿は此に注意し簡便なものに作りました◎家計簿には往々記帳落が出來て困るものであります朝に拂つた金も夕には忘れて仕舞ひ勘定合ふて錢足らずと云ふことになりますが本簿はこの憂がありません◎家計簿に日々の出納を記載すると云ふ事は極めて面倒な事柄でありますが併しこれは是非共記帳せねばなりませんが本簿は此面倒な事の無いやうに致しました◎家計簿には西洋簿記式と日本簿記式とがありますが簿記式は最早古くなりまして捨られて仕舞ひそれに代るが此カルタ形式で本簿は最も嶄新なものであります◎此家計簿は形を郵便葉書形にいたしまして表に朱線の罫を引き月日費目支拂額備考の四欄を設け金錢の支拂ある度毎に容易に記帳の出來るやうにしてあります◎此家計簿に依つて得らるゝ利益は種々ありますが便利な爲に時間が省かれ支拂が正確にして間違なく載せる事が出來從つて家計を且つ裕かに營む事が出來ます◎此家計簿は最も廉價にして居りまして何處へ注文されても此價では出來ぬと云ふ程な仕組みにして居りますそれは何故であるかは本簿を一覽すれば知れます◎此家計簿は發行所が數年來會員より寄稿せられた家計の現況報告により其他家計の現況を視察し研究した結果より產み出したるもので最も完全な者と思ひます

奥村刀自從軍紀念　好評第四版出來　一部拾錢　郵便金不要　美紙數百頁

婦人の慰問使

△何故に……此本がよく賣れるであるか
△何故に……此本が安くて買はれるのか
△何故に……此本が年末の贈物によきか
△何故に……此本が新年の贈物に叶ふか
△何故に……此本が團體で多く買入るか

東京九段牛ケ淵公園　愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雲の上

◎内親王殿下の御歡迎　常宮、周宮、富美宮、泰宮の各内親王殿下には去る七日午前蕭々として降り頻れる雨中をも厭はせられず豫て外務大臣官邸の構内に修らへさせられたる御棧敷に成らせられ滿洲軍總司令官大山元帥以下總司令部一行の凱旋を御覽あらせられ各殿下が滿洲軍御歡迎厚き御志こそ有難けれ

◎由紀子女王の御作文　京都市竹間學校に御在學中の賀陽宮由紀子殿下御勉學の御消息に就ては既記したるが今又其御近狀を承るに五六の二ケ月は御病氣のために御休學あらせられたるにも拘はらず學課の御成績も優れさせられ昨今も日日の御登校には容易に車などには召さず御徒歩にて御通學あらせらるゝが明年三月を以て尋常科の課程を終はらせらるゝ御都合の由學校内には別に御休憩室を設けあれども御登校なるや否や直に運動場に成らせられ他の子女の間に立交らせられ襤褸を纏へる車夫や日傭の子も何等御隔てなく賢くも御手を握りて御運動あらせらるゝ態を親しく拜する職員等の感泣し居るは申すまでもなき事なるが殊に裁縫の教授時間となりて教場に入らせらるゝや御自分の御道具を運ばせらるゝ外他の子女の針箱をも二ッ三ッづゝ兩手に御抱への上御取出しあるより子女等は殿下の御手を勞する事を恐懼し競つて道具の取出しに遲れざらんことを力め居れりといふなほ同殿下が近頃物せられたる作文は『東郷大將』といへる題にて左の如く遊ばしたるが右は殿下の御筆を執らせられたる儘にて教師の一字一句も改めたるものにはあらずと承りぬ

東郷大將

去年から日ろ戰爭にたび／＼てがらをしをられたと云ふ事を聞いてゐたあの東郷大將はがいせんしてめでたく東京にかえてをられましたこの十一月二十五日京都にこられて天皇陛下のごせんぞのおまつりをしてあるせんざんえまいられましたそうしてしようこく寺へまいられてそれから櫻のはんはへゆかれました京都の人はみなにぎやかにむかへました私もみましたいしよかいぐんのふくをきてをられましたえらい方のやうにえらそうにもせんとていねいにれいをしられました

この日ろ戰爭で名がせかい中へたかまるやうになつたのであります唱歌にも『まばらに白き口のひげじあいにとめるまなざしはかちておごらぬ大將のいともゆかしきすがたかな』といふてありますほんとにこの通りでありました

四年生　賀陽宮由紀子

雜報

◎文部大臣更迭　去る十四日午後宮中に於て左の如く親任式を行はせられたり

兼任文部大臣　内閣總理大臣兼外務大臣伯爵　桂太郎

依願免本官　文部大臣　久保田譲

◎大學總長更迭　去る十四日午后左の如く更迭ありたり

任帝國大學東京大學總長（特に親任官の待遇を與ふ）　濱尾新

同時に博士松井直吉氏は願に依り校長兼任を免ぜられ農科大學長専任となれり

◎大山元帥に短冊を贈る　去る七日新橋停車場に大山元帥一行の凱旋を迎へたる筑地本願寺令女教會長たる前公爵夫人毛利安子幷に東京眞宗婦人會長たる本願寺前法主大谷光尊伯妹大谷朴子は左の歡迎の和歌を記したる短冊を同元帥に贈りたりと

大君のみことかしこみ御いくさをすべしいさをはかぞへつくさず　毛利安子

かへりこし君にむかへばさらにまたくにのひかりのそふこゝちする　大谷朴子

◎戰時と看護婦　京橋看護婦會、杉浦看護婦會等を中心として外二十餘の看護婦會より成立せる東京看護婦協會は戰時中諸方面に義務的勤務をなせしが去月中會長山根正次氏より東京市長へ差出したる報告の梗概に依て其大要を記せば卅七年五月十九日米國看護婦マギー氏一行を麹町内幸町幸倶樂部に招待し紀念章を贈り九月廿日青山練兵場に行はれたる常陸丸殉難者葬式場の救護として看護婦十二名、九月六日比日谷公園に行はれたる東京市祝捷會の臨時救護員として看護婦六名を派出し、十月卅日麹町區有樂町三井集會所に開催せし國民後援會に救護員十五名を派出し傷病者三名を收容救護し、本年に入ては一月七日比日谷公園に於ける東京市祝捷會に救護員廿五名を派出し傷病者六名を救護し三月十八日同市の催に係る日比谷の祝捷會へ看護婦二十三名を派出し傷病者二名を救護し六月一日同じく日比谷公園に行はれたる東京市祝捷會に十六人を派出し七月十日英國婦人リチヤードソンを京橋區銀座會堂に招待し昨年來戰地に於る傷病者救護の勞を謝し紀念章を贈り十月十一十二の兩日日比谷公園に行はれたる英國艦隊歡迎場へ臨時救護員四十八名を派出し十月廿四日上野に於て行はれたる東京市の東郷大將歡迎會場に救護員三十名を派出し傷病者二十名を救護し十月三十日十一月一日の兩日に行はれたる日比谷公園の市催海軍下士卒歡迎會場へ二十八名の救護員を派出し尚昨卅七年十二月四日より本年十月十日迄に築地本願寺内に設置されし北海道、弘前、仙臺三師團の傷病兵舍に左記の看護婦會より一回三名宛の看護婦を派出したる由

▲杉浦看護婦會卅一回▲京橋同上二十五回▲室同上十六回▲柘植同上十五回▲廣瀬同上十五回▲大島同上十四回▲近藤同上十三回▲中村同上十三回▲回生同上十四回▲十字同上十一回▲山岡同上十六回▲愛隣同上十一回▲愛誠同上九回▲帝國同上七回▲上野同上六回▲高木同上八回▲足立同上二回▲二六同上二回▲有隣同上二回

◎大山元帥夫人の美擧　大山侯爵夫人は今回元帥の凱旋に付き青山六丁目及溫田村の青年に對し左の金員を贈れり

一金三拾圓　青山六丁目青年會へ

一金三拾圓　溫田村青年會へ

尚同夫人は左の如く贈金したり

一金百圓　溫田村慰兵義會へ

一金百圓　赤坂慰兵義會へ

右は全く出征軍人及其遺族を慰めんが爲なりと

カスガオイル

貴婦人用小間物類
京染御半ゑり
十一月廿日より卅一日迄
大見切半ゑり取揃ひ申候
粗景呈上
小間物店
半ゑり店
東京日本橋通三丁目角
同向ひ角
電話本局二千九百四十七番

凱旋と金銀盃幷に木杯

弊店製作金銀盃及木杯の品質優美にして而も廉價なるは夙に江湖諸賢の稱贊を辱ふする處なり今般凱旋紀念品に限り特別割引を以て調進可仕候間何卒多少に不拘御下命伏て奉冀候

○盃類圖案摺に改正定價表御申付次第進呈

東京京橋區銀座一丁目九
伊勢伊商店
特電新橋二三三一番

高等香油
チエリーオイル
紳士貴婦人令孃用

此品は無色透明さら／＼として香氣は如何なる香水にも異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大ゐに流行せる彼の東髮用としては非常に高評を博しつゝあり
定價八十五錢、四十五錢、廿五錢（送料各十錢）
賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり
發賣元　東京日本橋區本町二丁目
高橋初次郎
特電四一三番

歲末年始の贈答品に
キング
おしろい
のび能き事は本品の特色にして其佳香の微妙なる身邊に馥郁たり
東京
頭飾小間物問屋
淺井本店
橋町
（電浪花一四五七）
好適の半打入あり

歲暮年玉最好適品
◎珍菓　繪はがき
數十種にて一個毎に意匠と味とを異にするのが……
東京京橋區仲橋廣小路
松月堂
電本本局九八七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◎凱旋軍歡迎會　大山總司令官を主賓とせる歡迎會は去る十七日雨中なるにも拘はらず上野公園に於て開催されたり當日午前一萬有餘の軍人は日比谷公園に集合し同十一時凱旋行軍を始め大山總司令官を先頭に兒玉大將、井口、松川兩少將、次に第一軍司令官黑木大將、久邇宮殿下其他各幕僚或は馬車に或は騎馬にて豫定の順路を上野に着したるは十二時を過ぐる十分なりき、斯くて一行式場に着するや尾崎市長歡迎文を朗讀し大山元帥答辭を述べ次に千家知事の發聲にて天皇陛下の萬歲、陸軍の萬歲を三唱して式を了へ夫れより園遊會に移りしが相撲其他の餘興ありて頗る盛會なりき尙ほ當日は降りしきる雨をも厭はずこの名譽ある軍隊を歡迎せんとて集まり來たるもの日比谷より上野に至る沿道に充滿して萬歲の聲天を動かし地を震す許りなりき

◎女子大學近事　目下の建築は門に向て塀に添ひ左方に建築されたる木造家屋は幼稚園に宛てられ、右方に煉瓦にて建築中のものは大講堂及敎育部敎室、高等尋常小學校敎室の豫定の由前記の校園は來春四月より開校すべきものなり、又櫻楓會附屬たる實業部の部員即ち自活生徒は目下二十名程にして牧畜部の牛は三頭家禽は五六十羽なり、生徒數は英文科生徒は六十六名、國文科は百八十三名、家政科が三百九十七名、英文豫科八十四名、普通豫科が九十七名合計八百二十七名は大學部生徒にして之に加ふるに附屬高等女學校の三百七十九人を以てすれば總計千二百〇六人となる勘定なり、寄宿舍の棟數は十三棟にして豐明寮とか華山寮とか夫れ〳〵建築物の名はあるも、實際の寮數は二十三にして其名は次の如し
富士、水明、光風、星花、曉翠、靜明、玉成、松柏、寒光、自敬、敷島、鳳泉、貫善、第一英、第二英、磐、第二島、成生、扶桑、春秋、桂花、濟美、泉水、現在在寮生は七百餘名
幼稚園の新設につき園兒をして玩具に就て有益なる習慣を養はしめむが爲めに陶器部を設け大倉組の陶器部主任大倉孫兵衞氏（在名古屋）の許に一人の學生を派遣し陶器を學ばしめつゝありと尙ほ内庭に不遠陶竈を作るの設計ありと

◎女子師範學校近事　小石川區竹早町なる同校は曩に寄宿舍を燒失せしが直に再築に着手することゝなり其豫算は二萬圓餘の由にて已に府會に提出され居れりと云へば其決定も間近なるべく其決定次第工事に着手の筈にて當事者の希望によれば本年中に三分位の進工を見たき積りなりと云ふ尙又同校に於ける現在生徒數は三學年甲組二十八人、乙組二十七人、二學年甲組乙組共に三十四人、一學年甲組三十一人、乙組三十四人、合計百八十八人にして内私費生十名なり、第二高等女學校の現在數は一學年四十九人、二學年四十八人、三學年四學年四十六人づゝ、五學年三十八人、合計二百二十六人なりと云へり

◎正風會紀念會　大日本婦人正風會にては去る十七日神田區今川小路なる同會禮法部に於て創立十年紀念會を開らきしが餘興等ありて頗る盛會なりしと

◎ミシン裁縫敎授　本鄕區駒込東片町百十一番地櫻井氏方に於て責任を重ずる敬すべき婦人十名以上に限りミシン裁縫女學院の敎師を聘してミシン裁縫の敎授をなすべしと授業時間は毎日午前は八時より午後は一時より四時間宛にして授業料は壹圓期間は小兒洋服類まで三ヶ月學校服まで六ヶ月なりと尙ほミシン器械は最新式シンガー商會の製造にかゝるものを會員に限り安價且つ月賦にて買ひ得らるゝ便法もありと云へり

◎英學舍の開始　英國人ミヽエ・シロッス氏夫人クリストファーロッス氏は這回芝區公園第十一號二番地に題號の如き學舍を開始し授業は毎日午前七時半より午後九時半まで月謝は十人一組一人一ヶ月貳圓五十錢、五人一組一ヶ月一人五圓にて個人敎授は毎週三回につき拾圓、同上毎日ならば十五圓なり右の外英文添削出敎授の依賴にも應ずと云ふ

◎割烹講習生募集　京橋區鈴木町百六番地日本割烹學會に於ては目下第二回講習生を募集中なるが講習期限は三ヶ月にして寄宿生は月謝共一ヶ月拾圓なり尙ほ和洋料理の婦人は一ヶ月十五圓より二十圓位までにて雇入るゝもの頗る多く成績至つて良好なりと云ふ

◎水彩畫講習　神田區三崎町三丁目一番地なる三崎幼稚園に於て土曜日曜日を限り水彩畫の講習會を開らくこととなりしが講師は斯道の名家として知られたる大下藤次郎氏なりと云ふ

◎看護婦人會の演藝會　篤志看護婦人會にては去る八日午前十時より澁谷分院娛樂室に於て患者慰問の爲め演藝會を催したり出席者は閑院宮妃殿下を初め梨本宮東伏見宮兩妃殿下及平山理事足立講師會長鍋島侯夫人其他多數の各評議員等にして泉祐三郎の今樣能狂言、貞水の講談及義太夫等ありたりと

◎閨秀音樂家招聘　淸國四川省成都なる女學堂主幹周翔氏は今回日本遊歷を期し下谷區谷中眞島町東京女子體操音樂學校より同校卒業生加藤ミネ子を向ふ三年間の約束にて招聘し同女學堂に西洋音樂科を設くべしと

◎次號の發行日　一月一日

歲暮大賣出し
來る十二月　二十日より三十一日迄
當日景品進呈
（本場の特色）
尙一月一日二日三日四日年玉呈上仕候
◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し上品は市内無賃て配達致します
◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角　帝國博品館　電話新橋一六五二　二三六一

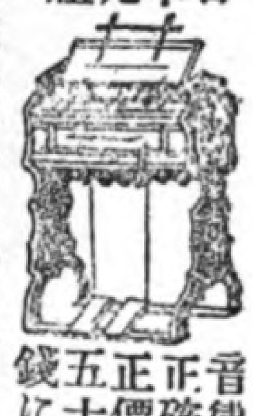
正札附陳列場
西洋小間物　帽子各種　婦人用小間物
中久商店
束髮用具　内外化粧品　玩具文具
東京神田小川町通り　裏神保町一番地

胃病の良藥　太田胃散

石田孫太郎著
嫉妬の研究（最新刊）
價廿五錢　郵稅四錢　ふりがな附頗る美本
◎第一章緖論◎第二章嫉妬の意義◎第三章變形的嫉妬心◎第四章男女嫉妬の相違點◎第五章都會及田舍人の嫉妬◎第六章嫉妬の歷史◎第七章嫉妬の罪惡及效果◎第八章嫉妬は一夫一婦の母◎第九章嫉妬尊重論
◎諸君若し女子ならば……自己の研究也
◎諸君若し男子ならば……自己の研究也
◎諸君若し妻女ならば……自己の研究也
◎諸君若し夫婿ならば……自己の研究也
◎諸君若し僧侶ならば……之れ宣戰狀也
◎諸君若し牧師ならば……大なる砲彈也
發兌元　東京市日本橋區箔屋町拾四番地　丸山舍書籍部　特電話本局二〇八五番

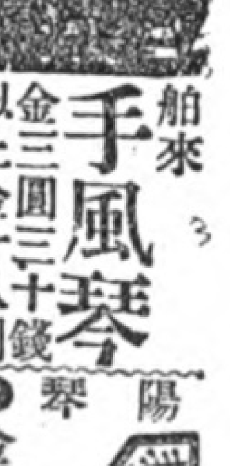
洋琴（ピアノ）

西川製　一號　金三百五十圓　二號　金四百圓　三號　金四百五十圓
舶來　金三百五十圓以上各種

日本元祖

西川風琴　音律正確　正價金十八圓以上二百五十圓迄各種　◎郵券二錢にて詳細目錄進呈
◎歐米各國舞踏大觀◎山田唱歌集◎新敎育唱歌◎瓜生繁子編進行曲◎新大捷軍歌

舶來　手風琴

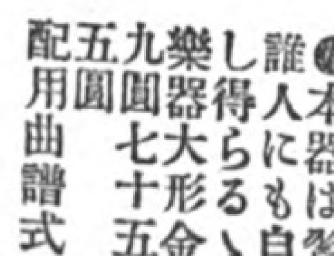
金三圓三十錢以上金十八圓迄各種

陽琴

◎金一圓廿錢　金二圓　◎金三圓

樂器書籍廛　十字屋　東京銀座三丁目二　電話新橋一二五九

舶來　バイオリン

弓　箱　外附屬品一式　金拾四圓以上
各種新着　金拾八圓迄

無師獨奏　紙腔琴

◎本器は習はずして誰人にも自由に奏曲し得らるゝ美妙の音樂器大形金十五圓九圓七十五錢小形金五圓
配用曲譜式百五十種

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

コクカツーショール

特約販賣店

大阪市東區瓦町四丁目
服部富三郎
特電話東七〇二

大阪市東區淡路町四丁目
吉阪元次郎
特電話東一三六二

本品は天鵞織地裏製にして最も優美高尚の品に有之候
本品は丸形。平形（鶴）（オシドリ）羽根付の三種有之候
本品には一々如上圖商標を付し候間御買取の節は御注意被遊度候

本品は全國到る處洋毛織物店。西洋雜貨店。洋小間物店等總てショール（肩掛）類を取扱居候店には陳列致し有之候間御最寄にて御高覽の榮を賜り度候

東京市日本橋區本町二丁目
中喜ネル店
特電話本局七五〇

大阪市東區心齋橋筋安土町四丁目
中喜支店
特電話東一七九〇

東京製絨株式會社
日本フラネル製造株式會社
島田毛織物製造所
品川毛織株式會社
製品特約販賣店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御徳用御經濟向

本場秩父銘仙織　特約販賣

今回産地織元と特約相成立ち優等品を撰擇し他店になき廉價に販賣可仕候御注文の節は電話又ははがきにて御申越被下候はゞ見本早速持參可仕候

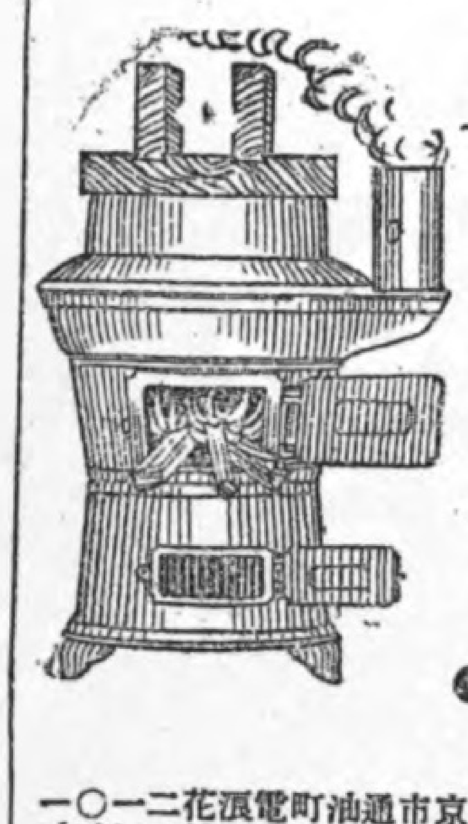
◎地方御注文は御年齢を御通知被下候はば品質柄行の見本を御送附可仕候（但し郵券十五錢を要す）

東京市本郷三丁目（眞砂町通り）

大　さかいや　井上呉服店　電話下谷一二八五番

公益　梅田竈　特許

石炭、薪、木炭、コークス何でも焚得る舊竈に比し五割餘の有益保險附御試用卅日間賣價で買戻します



締鐵製改正定價表

一升五合器	金三圓
二升器	金四圓
三升器	金五圓
四升器	金六圓
五升器	金八圓
六升器	金十圓
八升器	金十二圓
一斗器	金十五圓
一斗五升器	金十八圓

◎販賣所全國の金物商及石炭店

發賣元銅鐵問屋梅田仙吉　東京市通油町電話浪花二一〇一

春海屋洋酒店

歳暮御進物

御歳暮品には洋酒洋食料が最も時勢に適したるものと存候何か御見立御買上奉願候

麻布區飯倉四　春海屋

洋酒食料品雜貨卸小賣

四洋酒食料品、シガー、シガレット、香水、石鹸、食卓用器具及割烹用道具一式

直輸入

東京神田南神保町十三番地（電話本局二四五二）　櫻屋商店

謹告

弊店儀從來御得意樣の御愛顧に預り逐日隆盛に趣候段皆是偏に御客樣の御賜と奉鳴謝候陳者今夏より改築中の處漸く落成候に付聊御禮の爲め來拾五日より廿四日迄拾日間何品に不限正札より壹割引にて販賣仕候間不拘多少御用被仰付度奉希上候

婦人洋服地并袴　地帽子及小間物

八木屋號　大國市藏

麹町區麹町二丁目七番地　電話番町七百四拾貳番

衞生佳品西洋菓子

クリスマス歳末年始御進物品

森永バタカップ
森永キヤラメル
森永バナナ
森永マシマロー
森永フレンチ、メキスト
森永チョコレートクリーム

●各品共原料を精選し注意調進仕候●特に其純白なるは森永マシマローなり

▲市内及各地有名なる洋酒食料品店及菓子舖にあり

凱旋將士の贈品に適す

製造元　東京赤坂田町　森永商店

○松本オルガンは何故に好く賣れるか

（一）外形の美よりも音色の優美

（二）音調正確

（三）構造堅牢にして使用するに從ひ其價値を現はす

○松本樂器目錄御入用の方は郵券貳錢御送りあれ

東京市京橋區銀座四丁目四番地

松本樂器合資會社

電話新橋二二九八番

●國庫大小券面勸業債券貯蓄五圓債券　整理軍事帝國五歩利公債記名諸公債

國債券賣買

特別勉強

●軍人諸君ニ尤モ秘密御便利ニ取扱申候
●諸公債券擔保最低利秘密御便利ニ取扱申候
●御用ノ節ハ電話又ハ電信ニテ御問合被下候得バ直ニ御返事可申上候尚ホ遠隔ノ地ト雖モ荷爲換便ヲ以テ乍居御用辨相成候樣御取扱可仕候
●市内店員派出照會往復端書ニ限ル

日本橋區芳町拾番地（電話浪花一二六六番）

泉屋兩替店

家庭之重寶

專賣特許　自働靴足袋繕ひ器械　正價 金八十五錢　小包料 金拾錢

本器は靴足袋及びメリヤス類のやぶれたる個所を繕ふべき有益の器械にして其名稱の如く全然自働的なる故使用法頗る容易而かも最も迅速に且つ體裁能く繕ひ得る完全實用品にして子女の敎育、娯樂を兼ね且つ經濟的なる一擧三德の大利益を有する空前の逸品なり

本器は歳暮年始贈答品として頗る好適の佳品なり

御購買の方にて詳細なる使用書を贈呈すべし

一手販賣元　東京京橋區加賀町一番地（電話新橋一六一四番）

英國貿易商會販賣部

登錄商標

市内ハ御用向之節御一報次第參上可仕候

縮緬お召　手さげ　[illegible]

東京よし町　佐竹組糸舖　電話浪花二一三六

定價表ハ御申越次第直ちに呈送仕候

(ラクダ印)

(麝香石鹸)

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべきミレーの香料を多量に含むが故壹度使用せば其香氣身体に元より手拭タオル、ハンカチーフ及浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は馥郁として其かほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる特點を有す

○定價大形廿錢　小形拾錢

熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり

近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意

東京本石町三丁目十八番地　芳香品製造問屋　井上太兵衛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各女學校御用
美術造花材料各種
東京日本橋區横山町一の十六
天野卯兵衛商店
(電話特浪花一六四三番)
營業案内は往復葉書にて御申込次第送呈仕り候

中瓶 壹本拾五錢

二八水は進歩せし化粧水の隨一なり
効能は世間已に定評あり

花王石鹸本舗
東京馬喰町
長瀬富郎製品

婦人の最も喜ぶ歳末年始贈答品
●色白く艶をだす
松澤ホーサン石鹸
(御進物用　大形三個入　小形六個入)
(大形一個廿錢　小形一個十錢)
●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意
●當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店に於て販賣す
東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舗
松澤常吉

本會講義録之批評

▲中央新聞評　▲毎日新聞評　▲朝日新聞評　▲二六新聞評　▲日々新聞評　▲都新聞評　▲貿易新聞評

▲報知新聞評　高等女學校の全學科をば知名の女子教育家が講述せるもの也、平易と懇切とを主とせるものなれば、何人も難解の虞なかる可く、各科皆聯絡を保ちて其程度を一にせるなど、講述者の苦心を見るに足る、且つ有益なる科外講話の外に「姫百合」と題する五十頁の附録あり博士學士等の婦人に關する評議史傳衛生家庭等の文字を滿載して、一面雜誌の觀を備ふ、卷末更に田口掬汀の「學者の妻」といへる面白き小説あり、凡そ天下講義録多しと雖も、實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀なりと云ふ可し

講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
米國の通信教授法を參酌せる者、文字平明説明懇篤を盡くせり
女學獨習の便を圖り平易懇切を旨とせる女學講義録を發行せり
高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を招き得可し
從來の講義録中最も進歩したるもの丶一、三百頁の大冊子なり

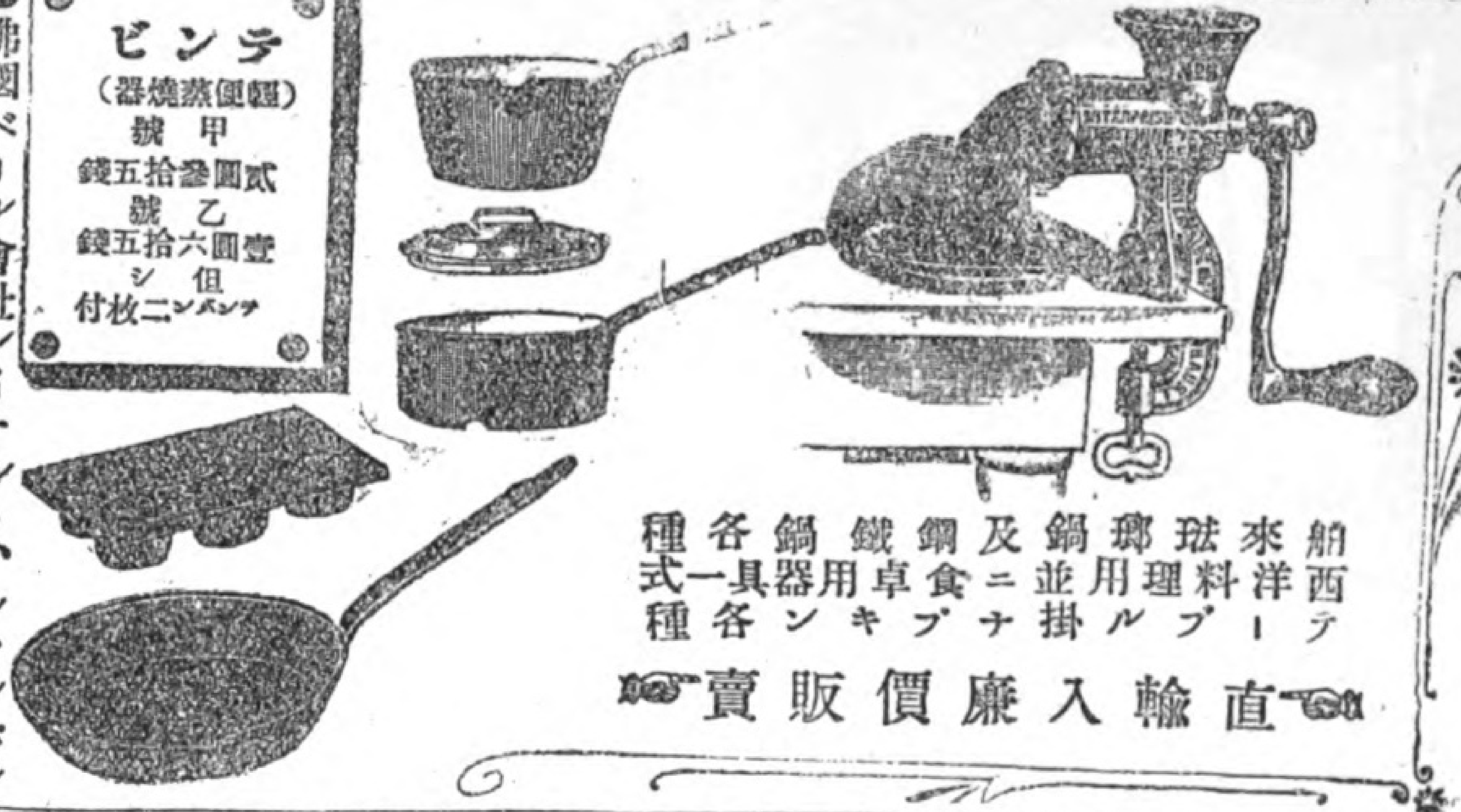
◎東京神田南甲賀町十番地(電話本局三千四番)
大日本淑女學會

大日本淑女學會

高等女學通信教授 ▲貳ケ年卒業 ▲講義平易懇切 ▲講義録月刊一冊參百頁 ▲講師は専門の名家 ▲會費低廉
目下入學の好機 詳細なる規則は申込次第進呈す

●テンピ(簡便蒸燒器)
甲號 貳圓參拾五錢
乙號 壹圓六拾五錢
但シテンパン二枚付

●佛國ペール會社ルイナルト、シャンパン
東京市芝區櫻田本郷町十番地
四洋食器 食料品 商 堀口商店(電新二九〇六番)



舶來琺瑯鍋及銅鐵鍋各種
西洋料理用並ニ食卓用器具一式
テーブル掛ナプキン各種
直輸入廉價販賣

戰勝國民必携 大寫眞帖出づ

滿韓寫眞帖

日本人の最大發展地を寫眞にて眼前に活躍せしむ 日本人必携の大寫眞帖也
◎口繪◎ ▲名勝 ▲風俗 ▲商業實景 ▲農業實景 ▲礦業實景 ▲鐵道陸運光景 ▲水運光景 ▲大都 ▲商港 ▲韓皇帝 王子其他 珍品滿載
記事には 滿韓渡航企業商業各案内 實地調査等 一目瞭然
十二月廿日發行 價廿錢
實業之日本社 東京京橋南紺屋町十二 郵税二錢 各地賣捌書店

◎第壹卷◎第二卷◎第三卷◎第四卷◎第五卷 來月初旬發行

日露陸海軍公報集

◎定價壹冊三十錢 郵税壹冊六錢
◎各卷附録には陸海以外の他の公報を始め凡そ日露戰爭に關する緊要なる事項を蒐集網羅して餘す所なし
◎本書完結すれば誠にこれ日露戰爭の絶好紀念品 宜しく壹本を購ひ以て子孫傳家の寶とす可し
●發行所 ▲東京市銀座新橋際新橋堂書店 ▲東京市麹町區有樂町 報知社出版部

於聖路易萬國博覽會名譽金牌受領

九谷燒

◎凱旋みやげの好適品◎凱旋勇士に限り當分壹割引
優雅珍品豊富、歳暮年玉高等御進物用凱旋紀念逸品數種
京橋區東仲通り南鞘町廿九番地
谷口支店

醫院案内 (順ぐりの事)

内科小兒科 特に呼吸器病
麹町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀬元九郎
電話番町八二二番

▲小兒 學校生徒 診察種痘 毎日午前
東京内幸町一ノ三 電話新橋四七四
三島醫院長 醫學博士 三島通良

院長 醫學博士 榊順次郎 毎日午前診療
副院長 醫學士 久保徳太郎 毎日夕刻診療
婦人科産科榊病院
東京麹町三番町卅三(電話番町三九五)

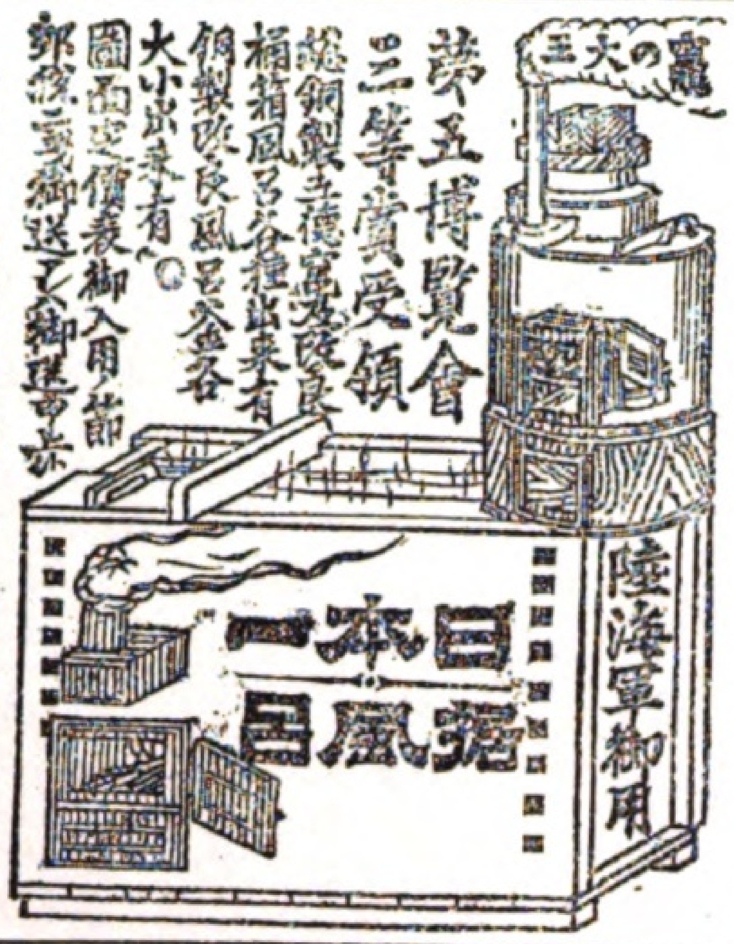
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局 三、三〇〇番 四一番 （特）三七番 一〇二番

一定期預金　年五分
一當座預金　日歩七厘
一特別當座預金　日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番

定期預金　六ヶ月以上　年六分
當座預金　百圓に付日歩　壹錢
特別當座預金　同日歩　壹錢參厘



第五博覽會 三等賞受領
總銅製主徳用改良桶箱風呂各種出来有
銅製改良風呂釜各大小出来有○
圖面定價表御入用節郵便葉書御送り御願申ます

東京日本橋區通油町十九（電話浪花一四六番）
製造發賣元 銅器物問屋 南部鐵瓶販賣 石川商店
代理店 京都柳馬場 春井喜助

寫眞撮影 淺草公園 江崎

◎牛豚肉販賣及
西洋料理◎

●品質佳良の肉類廉價に販賣候
●配達は迅速に且つ正確に致候
●滋養と風味の西洋料理調製候
●西洋料理出前は格別相働き候
●米店は精撰の白米廉價販賣候
●御注文は電話又は葉書で願候

小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二三七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

下山藥學博士御證明 皮膚專門加藤ドクトル御證明

最新化粧料 皮膚有効 ブリアンチン

は兩大家御證明の如く最良最新の高等化粧料にして美香あり皮膚衛生上及交際場裏の必要品也

用法
湯より上りたる時、顔を洗ひたる時、水をつかひたる時、おしろいを附る時、手のひらにてぬるべし
又白粉下としてはブリアンチンにまさるものなし

定價大瓶廿八錢 小瓶十五錢
特別（御進物用）三十五錢

東京京橋區南紺屋町 三光堂 電話新橋四〇二三

十壹版 ドクトル佐伯理一郎（總ふりかな附）
普通看病學
正價金六拾八錢 ▲郵稅金拾錢

袖珍 ドクトル佐伯理一郎譯（挿圖百卅七）
戰時平時救急看護
正價金參拾五錢 ▲郵稅金貳錢

二版 下平文柳著（總ふりかな附）
私宅看病法
正價金五拾錢 ▲郵稅六錢

拾版 下平文柳著 ●看病法修業用
人體解剖生理
正價金五拾五錢 郵稅六錢

發兌元 東京市本郷區龍岡町三十四 ◎吐鳳堂書店◎

リウマチスの舶來特効靈藥
リウマテア
一日分廿五錢　五日分壹圓　送料各貳錢

本劑は明治女學校教授川井運吉先生が多年米國留學中同病に罹り非常に苦惱せしに恩師シーレー博士家傳の本劑を惠まれ一粒頓服忽ち全治し不思議に堪へず即博士に請ふて秘傳を受け歸朝の後現山梨縣知事武田千代三郎女子大學教授戸川殘花、力士荒岩其他諸氏に試て皆靈驗あり茲に普く發賣して同病を患ふる者を救はんとす請ふ世上のありふれたる賣藥と同視せず速に御服用あらんことを

發賣元 東京市下谷區池之端仲町十九番地 本舗 勸學寮藥舗 電話下谷一三三五番

日本橋區堺町通ふきや町

誇之親玉

東京日本橋區長谷川町 電話浪花二八五九番 卸部 美濃磯本店
本郷區本郷五丁目 小賣部 美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町 電話下谷一四一五番 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

四谷區北伊賀町貳番地
内科一般 前宅診 後往診
青木醫院
正七位 青木鍋之助

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
峰内科醫院
院長 ドクトルメヂチーネ 峰秀世

◎京橋區南鍋町一の一角
◎産科婦人科 ●朝八時より正午 ●夕五時より八時
醫學士 伊庭秀榮

東京神田錦町參丁目 電本七一五
山口眼科病院 診察午前午後 入院隨時
院長醫學士 山口秀高

東京神田區美土代町三丁目十七番地
内科一般 午前往診 午後宅診
板垣亭
電話本局貳千九百七十番

院長醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番
午前診察 午後往診

小兒病診療 宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
◎電話下谷七一八番

芝區新堀 芝その橋 太田眼療院
眼科一般並に左の術は本院の特技也
いれめ うごき自由 あきとじ自在
●白き目ぼし染法は一見如正眼
●説明書は郵券貳錢を要す

●耳鼻咽喉科診療
淺草區向柳原壹丁目貳番地（左衛門橋通横町）
中村醫院

るゐれき 切らずになをす
●心臓病 殊に瓣膜病
●脚氣 轉地不必要
●診察午前
神田三崎町 新三崎橋前
千葉内科院

耳鼻咽喉病 診療午後 自三時至七時
淺草區北三筋町五九（小島町電車停留場際）
白木耳鼻咽喉科院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十八年十二月廿日發行(毎月五日二十日二回)

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田千代田町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區八官町 廣告堂
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜社
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

年末年始進物用適當品

洗用 ワツセル

●此ワツセルは油じみあか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼嘗達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

●用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳匁)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價 拾貳匁入 金拾五錢　六匁入 金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉 ワツセル

●此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二

英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元 三友商會

一嶄新高尚肩掛長卷
一巴里新流行高等婦人帽子。並にボーア
一英國ビーハイ印毛糸並に玉スコッチ
一凱旋軍隊玩具各種
一洋花。リボン。レース流行コム櫛。香水石鹼白粉 其他西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與 **三枝小賣店**
電話新橋三九二七

◉村井弦齋著

增補註釋 食道樂

春の卷　冬の卷　秋の卷　夏の卷

合本 定價金貳圓 郵税拾五錢 臺灣清韓卅五錢

實地經驗 台所重寶記

正價金八拾錢 郵税金十錢

▲歳暮年頭の贈物は此書に限る
▲凱旋軍人への贈物は此書に限る
▲食道樂續篇を讀まん人は必ず先づ本篇を讀むべし

●發行●東京市麴町有樂町 報知社出版部●發賣●東京市銀座大通新橋 新橋堂書店

煉香油パール發賣元 東京濱町一 電浪一一〇
平尾分店

內外國名種 繪はかき

內外化粧品賣藥 色白くまき人 ふあろ新聞 貴婦人
なんでも 太安賣
京橋通仲橋廣小路 百華園

●夜具●蒲團類 綿ざぶとん
街鐵外濠線も小川町東明館の前に下車を乞
東京神田區表神保町
矢田商店
電話本局二千十八
市內無賃配達
諸官省御用 (や)
●綿質保險附●正札引なし●絹布仕立あり

大日本女學會

●本會は十年來女學の通信教授に任じ本會の教を受けし者既に三萬二千人に及べり
●本會は伏見若宮妃殿下を名譽總裁に奉戴し鍋島侯爵夫人會長として會務を監督す
●本會が十年來女子教育に盡せる事　皇后陛下の御聞に達し特に御歌を賜はりたり
●本會の講義錄に高等科と簡易科とあり高等科は月謝四十錢簡易科は同二十錢なり
●今度新學期を開き簡易科は十一月五日に高等科は同廿五日に孰れも初卷を發行せり
東京市麴町區下二番町三十七番地
●詳細なる會則希望者はハガキにて請求あれ
大日本女學會 電話番町一三三〇

カメリヤ洗粉
あらひこ

本舗 東京 カメリヤ商會
聯合發賣元 東京橫山町二丁目 脇田盛眞堂　東京通鹽町 大和屋小兵衛　東京神田柳原川岸 小林富次郎
東京馬喰町 田中花王堂　東京通油町 柳下藤五郎　東京銀座 佐々木玄兵衛

カメリヤは時代の要求により生れたる最新最良の洗粉なり

●カメリヤは一家傳來的なる陳腐の原料を用ひて製せるものと全然趣きを異にす カメリヤは温和なる香氣を有するも一度之を用ゆれば花香芬々として爽快忘る能はず唯に色を白くしつやをよくするのみならず殊に肌を滑かならしむる點に於て全く他品に見る能はざる一大特長を有す社交を重んじ衛生に注意せらるゝ貴紳淑女の化粧料として日常欠くべからざる佳品なり

定價一個 瓶入十二錢 袋入五錢

戰勝紀念ピン

銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價(純銀製 一個 金三十五錢以上 餘は御好み次第迅速調製可仕候)

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる嶄新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達 **玉寶堂**
東京市下谷區池の端仲町
電話下谷 特九六五番 一二四四番

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 愛國婦人會內

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN